2023年度

授 業 概 要



日本体育大学医療専門学校

口腔健康学科

授 業 概 要

歯科衛生士専門課程の教育内容、授業科目及び単位数等

分野別	教育内容	単位数	授業科目	授業形態	1年	単位数	3年	単位数計	時間数	頁
			生命倫理学	講義	1	24	34	1	15	1
基	科学的思考の	4	自然科学	講義	2			2	30	2
礎	基礎	1	からだとこころの科学	講義	$\frac{2}{1}$			1	20	3
分			英語 I	講義	2			2	30	4
野	人間と生活	6	夾品 I 英語 II (医用英語)		2				30	5
判	八則と生活	0		講義				2		
1.31		10	コミュニケーション学	講義	2			2	30	6
小計	140	10		=11: →-	10			10	155	
	人体の	8	人体構造学(含、発生学)	講義	4			4	60	7
	構造と機能		人体機能学	講義	4			4	60	8
	歯・口腔の		口腔解剖学(歯型彫刻論)	講義	2			2	30	9
専	構造と機能	6	口腔機能学	講義	2			2	30	10
門			歯科栄養学	講義	2			2	30	11
基	疾病の成り立ち		病理学(含、口腔病理学)	講義	2			2	30	12
礎	及び	6	微生物学(含、免疫学)	講義	2			2	30	13
分	回復過程の促進		薬理学	講義	2			2	30	14
野	生 日陸の母生		口腔衛生学 I	講義	2			2	30	15
野	歯・口腔の健康		口腔衛生学Ⅱ(含、歯科衛生統計)	講義		2		2	30	16
	と予防に関わる	10	衛生行政·社会福祉行政	講義		_	2	2	30	17
	人間と社会の		衛生学・公衆衛生学	講義		2		2	30	18
	仕組み		介護技術	演習			2	2	30	19
小計	•	30	万 · 良 · 文 · 尔	1只日	22	4	4	30	450	10
\ 1, □	歯科衛生士概論	2	歯科衛生士概論	講義	2	4	4	2	30	20
	困竹削土工帆		歯科臨床概論(含、医学概論)	講義	$\frac{2}{2}$			2	30	21
			图 /			2		2	30	22
			成人歯科学 I (歯周)	講義						
			成人歯科学Ⅱ(修復・歯内)	講義		2		2	30	23
		1.0	成人歯科学Ⅲ(補綴)	講義		2		2	30	24
	臨床歯科医学	18	高齢者歯科学(含、先端歯科学)	講義		2		2	30	25
			障害者歯科学	講義		2		2	30	26
			小児歯科学	講義		2		2	30	27
			歯科矯正学	講義		2		2	30	28
			口腔外科学(含、麻酔学)	講義		2		2	30	29
			歯科予防処置論	講義	2			2	30	30
			歯科予防処置 I (歯周病予防1)	実習	1			1	45	31
	歯科		歯科予防処置Ⅱ(歯周病予防2)	実習		1		1	45	32
専	予防処置論	8	歯科予防処置Ⅲ(歯周病予防3)	実習		1		1	45	33
門			歯科予防処置IV(う蝕予防処置)	実習		1		1	45	34
分			口腔保健管理法	講義		2		2	30	35
野			歯科保健指導論 I	講義	2			2	30	36
	歯科		歯科保健指導論Ⅱ	実習			2	2	90	37
	保健指導論	7	歯科保健指導論Ⅲ	実習			1	1	45	38
	小水门口一子叫		(大)	講義			2	2	30	39
			小皮担守 場利診療補冊診 T	講義	2			2	30	40
			歯科診療補助論 I	中羽	2					
	歯科	10	歯科診療補助論Ⅱ	実習				2	90	41
	診療補助論	10	歯科診療補助論Ⅲ	講義	2			2	30	42
	2		歯科診療補助論IV	実習		2		2	90	43
			歯科放射線·臨床検査学	講義		2		2	30	44
			臨床実習 I -1(歯科診療所)	実習		8	_	8	360	45
	臨地実習(臨床実		臨床実習 I -2(歯科診療所)	実習			8	8	360	46
	習を含む)	20	臨地実習 I (教育施設)	実習			2	2	90	47
	псп10/		臨地実習Ⅱ-1(福祉施設)	実習		1		1	45	48
			臨地実習Ⅱ-2(福祉施設)	実習			1	1	45	49
小計	•	65			15	34	16	65	1,905	
選			専門基礎総合演習	演習		2		2	30	50
択	卡田		総合歯科医学演習	演習			2	2	30	51
必修	応用歯科	10	医療保険	講義			2	2	30	52
分	医学論		社会福祉論	講義			2	2	30	53
野			スポーツ歯学	講義			2	2	30	54
小計	•	10	小計	HIJJA		2	8	10	150	<u>-</u>
合計		115			47	40	28	115	2,660	
ഥ미		110	H H I		11	10	20	110	4,000	

1	区分	基礎分野	形式	講義	前期•水曜日
授業和	科目名	生命倫理学	単位	立数	1
担当	i教員	湯山 德行	履修	年次	口腔 1年次

現代の医学は発達はめざましく、病気や障害に悩む多くの人たちを助けています。しかし、一方では、延命治療技術の進歩により安楽死問題が生まれたように、生殖医療、移植医療、遺伝子医療など最先端医療技術は新たな倫理的問題を生じている。「生命倫理学」では、将来の医療人を目指している学生に、こうした倫理的課題について理解し、広い視野から問題を自ら考察する。

【授業	計画】							
1	5/17	生命倫理、医療倫理とは						
2	5/17	医の倫理に関する規範および国際規範 バイオエシックスに関わる問題						
3	5/31	1. 生命の始まりに関わる問題 2. 生命の終わりに関わる問題						
4		3.その他の問題 /中間試験						
5	6/21	インフォームド・コンセント						
6	7/5	研究と医療倫理						
7	7/19	歯科医療倫理を考えるうえで必要な行動						
8	8/2	前期期末試験						
9	8/9 1コマ	振り返り						
学習」	Aに限らず、様々な領域で生命倫理は必要欠くべからざる学問となってきている。この生命倫理にとって何が問題なのか新聞や雑誌、インターネットなどに十分注意を払い、各人が問題意識を持って挙げられるようにしておくこと。							
評価	評価方法 期末試験、中間試験、レポート、授業態度の総合評価							
教	科書	歯科衛生学シリーズ「歯科医療倫理」	参	考書	生命倫理学入門 今井道夫著 産業図書			

2	区分	基礎分野	形式	講義	前期•木曜日
授業	科目名	自然科学	単位	立数	2
担当	i教員	吉田 裕輝	履修	年次	口腔 1年次

科学的な思考・知識を身につけることは、歯科衛生士にとって歯科医療にたずさわる上で、必要不可欠な要素である。 特に医療に関して言えば、人体の構造や機能を理解する上での基礎となる。本講義では自然科学の内でも特に生命 科学について学んでいく。生命活動について基本的な事項から、最近明らかとなってきた知見も併せて紹介していく。

【授業	計画】			
1	4/6	授業概要、人体を構成する要素 生命の単位		
2	4/13	細胞のはたらき 細胞小器官		
3		細胞のはたらき 膜の構造		
4	4/27	遺伝子発現からタンパク合成過程 (セントラルドグマ)		
5	5/11	物質の輸送(受動輸送と能動輸送)		
6	5/18	組織と器官 上皮組織、支持組織		
7	5/25	組織と器官 筋組織、神経組織		
8	6/1	中間試験、これまでのまとめ復習		
9	6/8	糖質の種類とその化学構造		
10	6/15	脂質の種類とその化学構造		
11	6/22	アミノ酸とたんぱく質の種類とその化学構造		
12	7/6	核酸(DNA,RNA)と核酸関連物質の化学構造		
13	7/13	自己複製・細胞周期		
14	7/20	筋収縮の分子機構		
15	8/3	前期期末試験		
16	8/10	前期総合まとめ(期末試験解説含む)		
学習上	の注意	復習に重点をおいて学習すること。私語は慎むこと携帯電話、スマートフォン等の使用を禁止する。	0	
評価	方法	期末試験を主として評価する。これに中間試験及び	ド授業態度等を	か味し、総合的に評価する。
教和	斗書		参考書	歯科衛生学シリーズ「生物学」 医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ「化学」 医歯薬出版 高校 生物基礎、生物の教科書や参考書

3	区分	基礎分野		形式	講義	前期•水曜日
授業	科目名	からだとこころの科:	学	単位	立数	1
担当	i教員	又吉 啓太		履修	年次	口腔 1年次
		・到達目標】 :や機能及び患者の行動や心理を正しく理解	した医療従事者	その育成を目 (的とする	0
授業	計画】					
1	5/24	運動器系1(骨)				
2	5/31	運動器系2(骨)				
3	6/7	中間試験/解説				
4	6/14	運動器系3 (関節・筋)				
5	6/21	消化器系1(上部消化管)				
6	6/28	消化器系2(下部消化管)				
7	7/5	脈管系				
8	7/12	呼吸器系				
9	7/19	泌尿器系				
10	8/2	前期期末試験				
11	8/9	良好な対人関係を構築するための考え方				
学習」	この注意	授業中の私語、携帯電話の使用は厳禁とする。	積極的な姿勢で持	受業に臨むこと	<u>L</u> .	
評価	5方法	期末試験(100%)				
	科書	歯科衛生学シリーズ「人体の構造と機能1」、	参考書			

4	区分	基礎分野	形式	講義	前期·金曜日
授業和	科目名	英語 I	単位	立数	2
担当	i教員	坂井 成美	履修	年次	口腔 1年次

- ①歯科衛生士として頻繁に使う語句や表現を英語で表現することができる。 ②作文や発話等を通して自身の英語力を伸ばすことができる。 ③英語を使い、情報を得たり、自身の考えを発信することに興味を持つことができる。

【授業	計画】						
1	4/7	ガイダンス					
2	4/14	Appointment					
3	4/28	At the Reception Desk(1)					
4	5/5	What causes cavities?ビデオ視聴					
5	5/12	Before the Treatment(1)					
6	5/19	At the Reception Desk(2)					
7	5/26	Vocabulary Building					
8	6/2	中間テスト及び解答解説					
9	6/9	Before the Treatment(2)					
10	6/16	Taking an X-ray					
11	6/23	How did teeth evolve? ビデオ視聴					
12	6/30	Dental Care					
13	7/7	会話発表					
14	7/14	単語テスト及び課題提出					
15	7/28	前期期末試験					
16	8/4	前期期末試験解答・解説、前期のまとめ					
学習上	:の注意	 初回ガイダンスでグーグルクラスルームの使い方、音声ファイルのダウンロードの方法を説明し、練習します。 ・グーグルクラスコード 2yy5h2e https://classroom.google.com/c/NTkyMTY4NTAzMTUy?cjc=2yy5h2e ・授業計画は進度により変更する場合があります。その際は事前にお知らせします。 					
評価	i方法	平常点20%、会話発表10%、課題提出10%、学期末試験60%					
教	科書	English for Dental Hygienists 歯の健康 をづくりをサポートする英語表現 萌文書林	参考書				

5	区分	基礎分野	形式	講義	後期•金曜日
授業和	科目名	英語Ⅱ(医用英語)	単位	立数	2
担当	教員	坂井 成美	履修	年次	口腔 1年次

- ①歯科衛生士として頻繁に使う語句や表現を英語で表現することができる。 ②作文や発話等を通して自身の英語力を伸ばすことができる。 ③英語を使い、情報を得たり、自身の考えを発信することに興味を持つことができる。

【授業計画】								
【授業	計画】							
			1	9/22	前期の振り返り			
			2	9/29	How to Brush Your Teeth(1)			
			3	10/6	Crossword Puzzle			
			4	10/20	How to Brush Your Teeth(2)			
			5	10/27	Smoking and Eating Habits(1)			
			6	11/10	Smoking and Eating Habits(2)			
			7	11/17	How to Prevent Gum Disease(1)			
			8	11/24	How to Prevent Gum Disease(2)			
			9	12/1	前半の復習及び英文読解			
			10	12/8	Dental Health of Infants			
			11	12/15	Dental Health Activities			
			12	1/12	At an Adult Daycare Center			
			13	1/19	Whitening			
			14	1/26	会話発表及び課題提出			
			15	2/2	後期期末試験			
			16	2/9	後期期末試験解答・解説 後期のまとめ			
学習上	の注意	授業計画は進度により変更する可能性もあります。 課題の配信、連絡事項はグーグルクラスルームを使用します。						
評価	評価方法 平常点20%、会話発表10%、課題提出10%、学期末試験60%							
教和	斗書	English for Dental Hygienists 歯の健康 をづくりをサポートする英語表現 萌文書林	参	考書				

6	区分	基礎分野	形式	講義	後期•木曜日
授業和	科目名	コミュニケーション学	単位	立数	2
担当	i教員	佐伯 晴子	履修	年次	口腔 1年次

- 信頼される社会人、歯科衛生士としての「読む」「書く」「聴く」「話す」コミュニケーション能力を修得する。
 1. 失礼のない態度と言葉遣いで人と接することができる。
 2. 文献や資料を読み理解し、求められる形式に応じて適切に書く。
 3. 積極的に傾聴する。 4. 相手に合わせてわかりやすく話す。
 医学部・歯学部での指導経験を活かし、医療職として信頼できる態度と望ましいコミュニケーションを指導する。

授業記	計画】						
			1	9/28	医療コミュニケーション概説 医療人に求められるコミュニケーション能力		
			2	10/5	伝達トレーニング、ジェスチャーコミュニケーション		
			3	10/12	教科書 第1課IV文の構造・V助詞		
			4	10/19	うなずきと相槌、繰り返し、三つの姿勢		
			5	10/26	教科書 第3課 敬語・敬意表現を使おう		
			6	11/2	喜ばれる言葉と嫌われる言葉、 敬語テスト		
			7	11/9	助言トレーニング、 質問の技法(コーチング)		
			8	11/16	振り返りによるスキルアップ、プロセス・レコード		
			9	11/30	教科書 第2課Ⅱ説明をする		
			10	12/7	教科書 第4課 I 文章の要約		
			11	12/14	教科書 第4課Ⅲ手紙文 IV案内文		
			12	1/11	医療面接(初回面接)ロールプレイ		
			13	1/18	要約の技法、共感の技法		
			14	1/25	教科書 第5課 I グラフ・表の分析		
			15	2/1	後期期末試験 (敬語・医療面接・手紙文・グラフを中心に出題)		
			16	2/8	試験解説 集団討議・エゴグラム・ポジティブフィードバック		
学習上(の注意	授業は演習を中心に行うので、教科書については 授業中の私語、スマホ、携帯電話の使用、飲食お					
評価	 方法	出席率(遅刻率)と参加態度20%、授業中の課題。	と小テン	 スト30%、			
教科書		「大学生のための日本語表現実践ノート 改訂 版」風間書房	参考書		「人間関係とコミュニケーション」諏訪茂樹編著 「あなたの患者になりたい」佐伯晴子著		

7	区分	専門基礎分野			通年•木曜日
授業科目名 人体構造学(含、発生学		人体構造学(含、発生学)	単位	立数	4
担当	担当教員 中山 光子(前期)・眞田 咲弥(後期)		履修	年次	口腔 1年次

【概要】人体構造学では歯科医療の基本となるヒトの『構造』について学習する。 【到達目標】各器官の構造的な違いを深く理解し説明できることを目標とする。

【授業の概要・到達目標】

心理検査やグループワークを通じて自身についての理解を深 め、他者理解を深めながら患者指導につながる支援方法を学 ؞ٛػ

【授業	計画】	中山			真田		
1	4/6	解剖の基礎知識(方向用語など)	17	9/28	脳機能と行動学① グループワーク		
2	4/13	骨格系の構造と機能	18	10/5 脳機能と行動学② グループワーク			
3	4/20	筋と運動(筋の構造と種類)	19	10/12 脳機能と行動学③ グループワーク			
4	4/27	消化・吸収(消化器の概要)	20	10/19	脳機能と行動学④ グループワーク		
5	5/11	消化・吸収(消化器の構造と種類)	21	10/26	脳機能と行動学⑤ グループワーク		
6	5/18	循環(心臓・血管・リンパの構造)	22	11/2	認知行動学①		
7	5/25	呼吸(肺や気道の構造と機能)	23	11/9	認知行動学②		
8	6/1	中間試験/解説	24	11/16	動機づけ 自己効力感		
9	6/8	神経系(中枢神経の構造と機能)	25	11/30	記憶		
10	6/15	神経系(末梢神経の構造と機能)	26	12/7	感情		
11	6/22	感覚(皮膚・視覚器・聴覚器などの構造)	27	12/14	メンタルヘルス ストレス・コーピング		
12	7/6	泌尿器(腎臓などの構造と種類)	28	1/11	心理療法 行動療法		
13	7/13	内分泌(下垂体などの構造と種類)	29	1/18	カウンセリングのこころ		
14	7/20	生殖(男女の生殖器の構造と機能)	30	1/25	サイコロジカル・ファーストエイド(災害時対応)		
15	8/3	前期期末試験	31	2/1	後期期末試験		
16	8/10	前期期末試験解説	32	2/8	後期試験解説		
学習上 の注意		る内容が多いので、講義後は復習をおこなうこと。各自 /等を用意し配布資料を紛失しないようにすること。	学習上 の注意	後期 グループワークや自身を見つめることが中心となるため、集中 し私語を慎むこと。			
評価方法	中間試	験(30%)、期末試験(70%)	評価方法	期末試験、グループワーク時の態度、出席状況、提出物等を 総括的評価に加味する。			
教科書		生学シリーズ 人体の構造と機能 解剖学・組織発生学・(医歯薬出版)	教科書	『実践行動学』実践行動学研究所			
参考書	特になり	いが、必要に応じて紹介する。	参考書	書 歯科衛生学シリーズ『心理学』(医歯薬出版株式会社)			

8	区分	専門基礎分野	形式	講義	通年•月曜日
授業和	科目名	人体機能学	単位	立数	4
担当	i教員	湯山 德行	履修	年次	口腔 1年次

人体は細胞から構成され、組織、器官、器官系とシステムを構築して、人体の恒常性を保っている。 ここでは、医療従事者として必要な構造と機能を有機的に学び、臨床医学の基礎である全身の正常機能を理解し、歯科医療と 全身の関係を学習し、歯科医療従事者として必要な基礎的知識を理解する。

【授業	計画】					
1	4/10	細胞の生理的機能・恒常性	17	9/25	感覚(1)	
2	4/17	血液(1)	18	10/2	感覚(2)	
3	4/24	血液(2)	19	10/16	感覚(3)	
4	5/8	血液(3)	20	10/23	内分泌(1)	
5	5/15	循環(1)	21	10/30	内分泌(2)	
6	5/22	循環(2)	22	11/6	呼吸(1)	
7	5/29	循環(3)	23	11/13	呼吸(2)	
8	6/5	中間試験/神経系の概要	24	11/20	呼吸(3)	
9	6/12	神経系の基本機能(1)	25	11/27	消化•吸収(1)	
10	6/19	神経系の基本機能(2)	26	12/4	消化•吸収(2)	
11	6/26	神経系の機能(1) 中枢神経系	27	12/11	消化•吸収(3)	
12	7/3	神経系の機能(2) 末梢神経系	28	12/18	腎機能と排泄(1)	
13	7/10	筋と運動(1)	29	1/15	腎機能と排泄(2)	
14	7/24	筋と運動(2)	30	1/22	体温	
15	7/31	前期期末試験	31	1/29	後期期末試験	
16	8/7	振り返り	32	2/5	振り返り	
学習上	人体の機能を学習するに当たっては、生物学の知識が必要になり、高校で生物を履修していない学生は生物学を学習しておくこと。生体の機能は、からだの構造を理解していることが不可欠なので、解剖学・組織学等の知識を一緒に学習すること。 各講義の復習として配布プリントやノートを整理し、教科書を確認すること。					
評価方法 期末試験、中間試験、小テスト、授業態度による総合評価						
歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学 参考書						

9	区分	専門基礎分野	形式	講義	前期•木曜日
授業和	科目名	口腔解剖学(歯型彫刻論)	単位	立数	2
担当	担当教員 中山 光子		履修	年次	口腔 1年次

【概要】歯科医療に従事するために必要な医学の基礎として、顎・顔面領域の組織の名称および構造を学ぶ。 学習の視点から、1. 口腔の構造と機能、2. 歯の種類と機能、3. 口腔組織の構造と機能の3つに分類して、 それぞれについて理解する。

【到達目標】口腔領域の解剖学的名称および機能を、医療人として患者に説明ができる。各歯の形態を3次元的に把握し、実際に歯冠形態を彫刻できる。

【授業	計画】							
1	4/6	頭頸部組織の名称						
2	4/13	顔面と口腔の発生						
3	4/20	頭蓋骨						
4	4/27	口腔を構成する骨						
5	5/11	頭頸部の筋と作用(表情筋・咀嚼筋)						
6	5/18	頭頸部の筋と作用(頚部の筋)						
7	5/25	頭頸部の脈管系						
8	6/1	中間試験/解説						
9	6/8	神経概論(脳神経)						
10	6/15	神経(三叉神経・顔面神経)						
11	6/22	神経(舌咽神経)						
12	7/6	歯の形態(永久歯)・スケッチ						
13	7/13	歯の形態(乳歯)・スケッチ						
14	7/20	歯冠彫刻						
15	8/3	前期期末試験						
16	8/10	前期試験の解説とまとめ						
学習上	:の注意	学習する内容が多いので、講義後は復習をおこなうこと。各自ファイル等を用意し配布資料を紛失しないようすること。						
評価	i方法	方法 期末試験(70%)・中間試験(30%)						
教科	斗書	歯科衛生学シリーズ 「歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」 (医歯薬出版)			特にないが、必要に応じて紹介する。			

10	9 区分 専門基礎分野				後期•木曜日
授業科目名		口腔機能学	単位	立数	2
担当	担当教員 湯山 德行		履修	年次	口腔 1年次

口腔機能は、呼吸器、消化器、感覚器、発声器の役割をもち、感覚系、運動系、神経系を含めた複雑なネットワークによって構成されている。口腔機能は単に食物を摂取するだけでなく、生体の消化・吸収の入り口であり、発声に重要な役割を果たしており、多様性、統合性の機能を発揮している。また、口腔機能は生きる楽しみと深く結びついており、「生活の質」を高める機能を持っている。

歯科衛生士として歯科医療を理解する上での知識だけでなく、患者さんに口腔領域の専門家として説明できるレベルまで知識を理解してもらいたい。

識を理解してもらいたい。								
【授業	計画】							
			1	9/28	歯と口腔の感覚			
			2	10/5	口腔粘膜の感覚			
			3	10/12	味覚と嗅覚			
			4	10/19	咬合と咀嚼 下顎運動・下顎位			
			5	10/26	顎反射			
			6	11/2	咀嚼能力			
			7	11/9	嚥下嘔吐			
			8	11/16	嘔吐			
			9	11/30	吸啜運動			
			10	12/7	唾液腺構造と分泌			
			11	12/14	唾液腺の分泌反射			
			12	1/11	唾液腺の機能			
			13	1/18	発声			
			14	1/25	構音・言語中枢			
			15	2/1	後期期末試験			
			16	2/8	フィードバック			
		口腔の機能は、密接に人体の機能と関係している 各講義の復習として配布プリントやノートを整理し						
評価	方法	期末試験、小テスト、授業態度の総合評価						
教科	書	歯科衛生学シリーズ「歯・口腔の構造と機能 口腔解剖・口腔組織発生学・口腔生理学」	口参考書					

11	区分	専門基礎分野	形式	講義	前期•金曜日
授業和	科目名	歯科栄養学	単位	立数	2
担当	教員	富田 美穂子	履修	年次	口腔 1年次

【概要】食物として摂取した栄養素をどのように消化・吸収し、どのように活用しているかを学ぶ。身体を構成している物質の分子レベルまでを理解し、体内の動的なエネルギー代謝や物質代謝、遺伝子の関与、細胞内の情報伝達の働きを学ぶ。 【到達目標】栄養の基礎知識と栄養素の働きを理解し、各ライフステージでの健康を維持するために必要な栄養を考えた食生活の指導が行える能力を習得する。

*管理栄養士として30年以上実務経験を持つ担当教員による授業(8時間)

【授業	計画】								
1	4/7	生体の構成要素							
2	4/14	生体の構成成分と栄養素							
3	4/28	生体における化学反応							
4	5/5	糖質と脂質の代謝							
5	5/12	恒常性の維持							
6	5/19	自分の食事を評価する							
7	5/19	自分の食事を評価する							
8	5/26	バランスガイドを参考に食事の献立を考える							
9	5/26	バランスガイドを参考に食事の献立を考える							
10	6/2	中間テスト							
11	6/23	栄養素の働き							
12	6/30	微量栄養素の働き							
13	7/7	食生活と健康							
14	7/14	ライフステージと栄養							
15	7/28	後期期末試験							
16	8/4	後期試験の解説とまとめ							
歯科栄養学は、健康を維持するために必要な 科書と合わせて必ず復習をすること。		歯科栄養学は、健康を維持するために必要な食気 科書と合わせて必ず復習をすること。	生活を学ぶ学問	引であるため、各授業の配布プリントを整理し、 教					
評価方法 期末試験(80%)・中間テスト(20%)									
教科書 歯科衛生学シリーズ 栄養と代謝(医歯薬出版)			参考書						

12	区分	専門基礎分野	形式	講義	後期•火曜日
授業科目名		病理学(含、口腔病理学)	単位	立数	2
担当	担当教員 長谷川 博雅		履修	年次	口腔 1年次

口腔疾患を理解するために必要な一般病理学総論を先ず概説する。次いで、総論基礎的知識に基づいて、各論である口腔疾患の原因、成立機序、病態、予後や転帰を概説する。このなかで必要に応じて解剖学、組織学、生理学などの基礎的知識の復習を織り交ぜる。さらに口腔疾患と全身状態との関連性についても紹介していく。

本授業を通して、口腔疾患を理解するための病理学的基礎知識を習得し、さらに口腔疾患の予防法や治療法を理解するうえで不可欠な口腔疾患特有の病態を理解し、口腔と全身を相互に関連付けた知識を統合し、プロフェッショナルケアの担い手として必要な総合的な病理学的知識を習得する。

として必要な総合的な例理学的知識を質符する。 【授業計画】									
【授美	計画】								
			1	10/3	病理学概論•病因、遺伝性疾患				
			2	10/3	循環障害				
			3	10/17	代謝障害と退行性病変				
			4	10/17	増殖と修復				
			5	10/31	炎症·免疫				
			6	10/31	腫瘍総論				
			7	11/21	歯の発育異常歯、歯の損傷・着色・付着物				
			8	11/21	う蝕、象牙質歯髄複合体の病変				
			9	12/5	歯周組織の疾患				
			10	12/5	口腔粘膜病変				
			11	1/9	口腔の嚢胞と口腔の腫瘍				
			12	1/9	口腔がん				
			13	1/23	顎骨の病変、唾液腺の病変				
			14	1/23	口腔領域の奇形、口腔組織の加齢変化				
			15	1/30	後期期末試験				
			16	2/6	試験の解説とまとめ				
学習上	の注意	病理学は人体の正常構造や機能の逸脱であるので、解剖学、組織学、生理学などの基礎知識のうえに成立する 学問であるので、各自の理解度に応じて基礎知識の復習に務めること。							
評価	方法	期末試験、授業態度等の総合評価							
教和	斗書	歯科衛生学シリーズ 疾病の成り立ち及び回復過程の促進1 病理学・口腔病理学(医歯薬出版)	参	 善	病理学総論にもとづく口腔病理学 第3版 (永末書店)				

13	区分	専門基礎分野	形式	講義	後期•火曜日
授業科目名		微生物学(含、免疫学)	単位	立数	2
担当教員		小山 祐樹	履修年次		口腔 1年次

微生物がヒトに感染することで生じた病気を感染症といい、感染症が生じないようにする生体の防御能を免疫という。本科目では、病気と病原微生物の関係、および免疫機能について理解する。 また、口腔の微生物が起こす感染症について学修する。

【授業	計画】									
			1	9/26	歯科衛生士業務での微生物学の必要性、微生物学の歴史について説明できる。細菌の特徴について説明できる。					
			2	10/3	真菌,原虫,ウイルスの特徴について説明できる					
			3	10/10	感染における微生物の病原因子、生体の抵抗 因子について説明できる。					
			4	10/17	免疫の概念について説明できる。					
			5	10/24	体液性免疫について説明できる。					
			6	10/31	細胞性免疫について説明できる。粘膜免疫に ついて説明できる。					
			7	11/14	アレルギー、自己免疫疾患について説明できる。					
			8	11/21	主な感染症と病原微生物について説明できる。					
			9	11/28	化学療法および滅菌と消毒について説明でき る。					
			10	12/5	口腔環境と口腔常在微生物について説明できる。					
			11	12/12	ロ腔微生物叢とプラークの形成機序について 説明できる。					
			12	1/9	う蝕について説明できる。					
			13	1/16	歯周病と関連疾患について説明できる。					
			14	1/23	歯科診療上留意すべき疾患と感染管理につい て説明できる。					
			15	1/30	後期期末試験					
			16	2/6	解答解説・まとめ					
学習上	:の注意	微生物は非常に沢山の種類があり、全てを学習す 試験に出題される微生物の種類は限られているた 床的分野の理解を深められるようにする。								
評価	評価方法 期末試験(80%)、小テスト(20%)									
教	斗書	歯科衛生学シリーズ「微生物学」(医歯薬出版)	参	考書						

14	区分	専門基礎分野	形式	講義	後期•火曜日
授業科目名		薬理学	単位	立数	2
担当	教員	富田 美穂子	履修	年次	口腔 1年次

【概要】薬物は薬理作用をもつ化学物質であり、疾患の治療や予防を目的をして適応される。薬物の性質、薬物による生体への影響を理解し、疾患に対する薬物の作用機序や他の組織への副作用を学ぶ。超高齢社会を迎えた現在、高血圧等の全身疾患に対する薬物を服用している患者が多いため、それらの薬剤の影響と対応を学ぶ。 【到達目標】口腔疾患に対する薬剤の種類や作用機序を学ぶとともに、全身疾患に対する内服薬が歯科治療へ与える影響を理

解し、歯科衛生士として指導ができる知識を習得する。

【授業計画】				
		1	9/26	薬物の作用・動態
		2	9/26	薬物の種類と特徴
		3	10/10	薬物の副作用・取り扱い
		4	10/10	ビタミンとホルモン
		5	10/24	神経系に作用する薬物
		6	10/24	循環器系に作用する薬物
		7	11/14	消化器系に作用する薬
		8	11/14	確認テスト/悪性腫瘍と薬
		9	11/28	抗炎症薬
		10	11/28	痛みと薬
		11	12/12	麻酔薬
		12	12/12	抗感染症薬・消毒薬
		13	1/16	う蝕予防薬・歯内療法薬
		14	1/16	口腔粘膜疾患の薬
		15	1/30	後期期末試験
		16	2/6	後期試験の解説とまとめ
学習上の注意	薬理学は、疾患予防や治療を目的とした薬剤の作用理し、教科書と合わせて必ず復習をすること。	月機序を	学ぶ重	要な学問であるため、各授業の配布プリントを整
評価方法	期末試験(80%)・確認テスト(20%)			
教科書	歯科衛生学シリーズ 疾病の成り立ち及び回復過程の促進3 薬理学 第2版(医歯薬出版)	参	考書	

15	区分	専門基礎分野	形式	講義	前期•火曜日
授業科目名		口腔衛生学 I	単位	立数	2
担当	教員	廣川 晃司	履修	年次	口腔 1年次

歯科疾患の原因と予防に関する理論と実際に関して正しく理解し、患者の教育と指導、歯科公衆衛生活動ならびに地域歯 科保健活動を実行するために必要な知識と技術を学ぶ。

【授業	計画】					
1	4/11	口腔衛生学の意義、歯と口腔の健康と機能				
2	4/18	歯と口腔の発育変化				
3	4/25	口腔環境				
4	5/9	歯と口腔の付着物と沈着物(1)				
5	5/16	歯と口腔の付着物と沈着物(2)				
6	5/23	口腔清掃(1)				
7	5/30	口腔清掃(2)				
8	6/6	う蝕の予防(1)/中間試験				
9	6/13	う蝕の予防(2)				
10	6/20	歯とフッ化物(1)				
11	6/27	歯とフッ化物(2)				
12	7/4	歯とフッ化物(3)				
13	7/11	歯周疾患の予防				
14	7/18	口臭と不正咬合 他疾患の予防				
15	8/1	前期期末試験				
16	8/8	試験解説・振り返り				
学習上	習上の注意 実際に口腔の機能は個人に違いがあるということを理解して評価することを実習により補足することが必要。					
評価	評価方法 期末試験80%、中間試験,他20%					
歯科衛生士テキスト「口腔衛生学」第4版(学建書 院)			参考書			

16	区分	専門基礎分野	形式	講義	後期•木曜日
授業科目名		口腔衛生学Ⅱ(含、歯科統計学)	単位	立数	2
担当	担当教員 富田 美穂子		履修	年次	口腔 2年次

【概要】口腔領域の疾患予防とそれに関わる人間と社会の仕組みを学習する。行政が実施する地域における歯科疾患の予防法や保健にかかわるシステムを理解し、それに必要な情報収集、診断、活動計画の立案、成果の評価法を習得する。 【到達目標】保健に関連する社会の仕組みを理解するとともに、公衆衛生・地域歯科保健活動の疫学調査で必要な統計方法を理解し説明できる。

【授業	計画】				
			1	9/28	疫学の概論と研究手法
			2	10/5	う蝕の診断基準と指標
			3	10/12	歯周疾患に関する指標
			4	10/19	口腔清掃に関する指標
			5	10/26	歯・口腔の健康
			6	11/2	統計調査方法①
			7	11/9	統計調査方法②
			8	11/16	統計調査方法③
			9	11/30	歯科疾患予防
			10	12/7	母子歯科保健
			11	12/14	学校歯科保健
			12	1/11	成人保健
			13	1/18	産業歯科保健
			14	1/25	高齢者の歯科保健
			15	2/1	前期期末試験
			16	2/8	前期試験の解説とまとめ
受習上の注意 に適宜小テストを行う。		疫学を実施する上で必要な統計の基礎や手法を に適宜小テストを行う。	理解し	、復習や	ア演習を重ねる。授業時には、理解の確認のため
評価	ī方法	期末試験(80%)・小テスト(20%)			
教科書		・歯科衛生士テキストロ腔衛生学第4版(学建書院) ・歯科衛生学シリーズ 保健情報統計学(医歯薬出版) ・歯科衛生学シリーズ 保健生態学(医歯薬出版)	参	考書	

17	区分	専門基礎分野	形式	講義	前期•木曜日
授業和	斗目名	衛生行政•社会福祉行政	単位	立数	2
担当	担当教員 富田 美穂子		履修	年次	口腔 3年次

【概要】日本の保健・医療・福祉制度と医事法制を理解し、歯科衛生業務との関連を学習する。歯科衛生士法を中心に法律の目的や定義を理解し、業務範囲を確認する。また医療はチーム医療により実施されていることを頭に置き、他の職種との相互関係を築くために必要な法規、医療法、医師法、歯科医師法、保健師助産師看護師法、社会福祉関連の法律を学ぶ。 【到達目標】国民の健康増進と適切な歯科医療を提供するために必要な法律や社会保障を理解する。

【授業	計画】					
1	4/6	歯科衛生士と法律①				
2	4/6	歯科衛生士と法律②				
3	4/13	歯科医師法、歯科技工士法				
4	4/13	医療法①				
5	5/18	医療法②				
6	5/18	医療関係職種				
7	6/1	医師法・薬剤師法、その他の医療関係職種				
8	6/1	薬事衛生法規				
9	6/15	健康増進法				
10	6/15	母子保健·学校保健				
11	7/13	医療保険				
12	7/13	介護保険				
13	7/20	社会保障に関する法規				
14	7/20	医療の動向				
15	8/3	前期期末試験				
16	8/10	前期試験の解説とまとめ				
学習上	:の注意	法律の名称やその内容は、医療人の心構えとしての基本であるため、教科書やプリントを確認しながら自分のノートを作成して確実に覚えること。				
評価	方法	期末試験(90%)・ノート(10%)				
教科	科書	歯科衛生学シリーズ「歯・口腔と予防に関わる人間と社会の仕組み2 歯科衛生士と法律・制度」 (医歯薬出版)	参考書			

18	区分	専門基礎分野	形式	講義	前期•金曜日
授業科目名		衛生学•公衆衛生学	単位	立数	2
担当	当教員 荒川 浩久		履修	年次	口腔 2年次

【概要】衛生とは生命と生活を守ること、そして公衆とは社会で生活している人々のことを指す。衛生学・公衆衛生学は社会医学の一分野であり、個人および公衆の疾病の治療と予防、そして健康増進を図る科学、仕組みそして活動について学ぶ。 【到達目標】歯科衛生士として必要な口腔衛生学の基礎を理解し、他の医療職種と連携して衛生公衆衛生活動を実践できるように、環境や地域保健の仕組みおよび保健活動を学び、今後の地域医療に必要な対策を考えられるようにする。

【授業	計画】							
1	5/12	健康の概念と保持増進、予防の考え方と適用						
2	5/12	生涯を通じた保健・福祉、健康づくり運動の変遷						
3	5/26	人口静態統計						
4	5/26	人口動態統計、平均余命·平均寿命·健康寿命						
5	6/2	地球環境と健康、空気と健康						
6	6/2	水質環境と健康						
7	6/9	温熱環境・大気・放射線と健康						
8	6/9	廃棄物処理						
9	6/23	感染症の成立要件・動向と院内感染予防						
10	6/23	生活習慣病のリスク要因と予防						
11	7/7	食中毒と予防、食品の安全						
12	7/7	地域保健の仕組みと活動						
13	7/14	母子保健の仕組みと活動						
14	7/14	精神保健						
15	7/28	前期期末試験						
16	8/4	前期試験の解説とまとめ						
学習上の注意 る		授業内容のエッセンスを資料として配布するので、授業中に必要事項などを書き込みながら理解することに努める。 最後に課題を実行しながら復習する。 その後、 できるだけ早いタイミングで全体を復習し身につける。 授業中はいつでも質問などを受け付けるので発言してかまわない。						
評価方法 期末試験(90%)・授業への参加度と課題(10%)								
教	「医療スタッフのための衛生学エッセンス 2022/2023」学建書院 参考書							

19	区分	専門基礎分野	形式	講義	前期•木曜日
授業科目名		介護技術	単位	立数	2
担当	教員	大滝 周	履修	年次	口腔 3年次

介護とは、日常生活を安全かつ快適に営むための支援といわれている。現在、超高齢化社会を迎え、口腔機能の維持・ 増進が必要となっている中で、歯科予防処置、歯科診療の補助や歯科保健指導を担う歯科衛生士の活躍の場はますます 広がっている。そのため、安全で安楽な支援を提供するためには、その対象を理解するとともに、その対象に応じた支援が 求められている。

(子自りる)。								
【授業	計画】							
1	4/20	対象の理解						
2	4/20	食べること/排泄すること						
3	4/27	標準予防策						
4	4/27	標準予防策						
5	5/11	高齢者模擬体験						
6	5/11	高齢者模擬体験						
7	5/25	動くこと/清潔を保持すること						
8	6/8	認知症						
9	6/22	一次救命処置						
10	6/22	対象の状態把握①						
11	6/22	対象の状態把握①						
12	7/6	動くこと/清潔を保持すること②						
13	7/6	診療の補助						
14	7/6	対象の状態把握②						
15	8/3	前期末試験						
16	8/10	まとめ						
学習上	本授業については、講義、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション、技術演習を含めた形式で実施する。主体的に授業に臨みましょう! *技術演習の予習として、指示された事前学習を行い、演習に臨む。技術演習の復習として、振り返りシートを用い、学んだこと(理解できたこと、理解できなかったこと、課題を含む)、行動目標の達成状況を振り返る。							
評価	評価は、①前期期末試験(本試験)(60%)、②実技評価・グループワーク・プレゼンテーション・指示された課題および授業の態度(40%)の合計点とする。 再試験あるいは追試験の②の評価は、本試験で使用したものを採用する。 ★ 評価については、初回授業で詳細を説明する。							
教和	斗書	感染管理ベーシックブック	参考書					

20	区分	専門分野	形式	講義	前期·火曜日
授業科目名		歯科衛生士概論	単位	拉数	2
担当	上当教員 広川 香		履修	年次	口腔 1年次

歯科衛生を実践して人びとの健康づくりを支援するために、医療人としての基本的態度を学び、多様な科目において知識・技術、倫理的思考法の基礎を修得する。

*歯科衛生士として30年以上の実務経験を持つ担当教員による授業。

【授業	計画】							
1	4/11	歯科衛生士法と歯科衛生業務						
2	4/18	歯科衛生業務(歯科保健指導)						
3	4/25	歯科衛生業務(歯科予防処置)						
4	5/9	歯科衛生士の歴史および歯科衛生学						
5	5/16	歯科衛生業務(歯科診療補助)						
6	5/23	チーム医療						
7	5/30	業務記録・専門職と組織						
8	6/6	歯科衛生士の活動の現況と活動の場 中間試験						
9	6/13	コミュニケーションの方法						
10	6/20	ストレス・コーピング						
11	6/27	医療倫理・患者の権利						
12	7/4	医療安全管理						
13	7/11	現場での実践(歯科衛生士)						
14	7/18	現場での実践(歯科医師・外部講師)						
15	8/1	前期期末試験						
16	8/8	試験解説・まとめ						
学習上の注意		予習は教科書を読んでおくこと。復習は学習ノート・プリントをよく確認しておくこと。						
評価	平価方法 本試験(90%)、授業態度・提出物(10%)							
教	************************************							

21	区分	専門分野	形式	講義	後期•火曜日
授業科目名		歯科臨床概論(含、医学概論)	単位数 2		2
担当	担当教員 廣川 晃司		履修	年次	口腔 1年次

医学的に健康とインフォームドコンセントとは何かを学び、歯科医療の概要として歯と口腔組織について理解して歯科医学の 臨床分野として歯科保存療法 補綴治療 小児歯科治療 歯科矯正治療 口腔外科治療 歯科放射線治療の各分野の違い を把握する。歯科臨床専門分野を理解して 歯科診療の流れと歯科衛生士業務の関連を理解する。診療するうえで必要とな る、減菌消毒について理解する。 *歯科医師として30年以上の実務経験を持つ担当教員による授業。

【授業計画】								
			1	9/26	口腔内組織の構造と歯と歯周組織について			
					健康と医学についてインフォームドコンセントと は何か			
			3	10/10	歯科医療と歯科衛生士の主要業務			
			4	10/17	歯科医療の特異性について、歯科疾患の概要			
			5	10/24	歯科医療の患者対応と注意点			
			6	10/31	歯科診療の流れ問診、診査、治療			
			7	11/14	歯科疾患診査 治療の概念 救急処置 訪問 診療について			
			8	11/21	保健医療機関での業務			
			9	11/28	歯科保存治療の歯冠修復と歯内療法			
			10	12/5	歯科保存治療の歯周治療			
			11	12/12	歯科補綴治療 義歯 クラウン ブリッジ			
			12	1/9	小児歯科治療 矯正歯科治療			
			13	1/16	口腔外科治療 歯科放射線診断			
			14	1/23	歯科治療の消毒と滅菌			
			15	1/30	後期期末試験			
			16	2/6	試験解説・振り返り			
学習上の注意 学生の多くは歯科医学を学んでいないので 歯				歯科臨	床への入門となる。			
評価	方法	期末試験80%、小テスト,他20%						
教和	斗書	歯科衛生士ための歯科臨床概論(第3版) 医歯薬出版	参	考書				

22	区分	専門分野	形式	講義	後期•木曜日
授業科目名		成人歯科学 I (歯周)	単位	立数	2
担当教員		寺中 敏夫	履修	年次	口腔 2年次

【概要】歯周組織の常態・病態を理解し、歯周病の病態・治療法・予防法について学習し、歯周病は成人以後の主たる抜歯原 因であり、歯科医師のみならず医師との共同作業として歯周治療を実践できる歯科衛生士になるための理解を深める。 【到達目標】①歯周組織の構造を図示し説明できる。②歯周病の原因・リスクファクターを説明できる。③歯周疾患を分類できる。④歯周病治療・予防法を説明できる。⑤歯周検査法の種類と方法を説明できる。⑥歯周基本治療の重要性を理解し、説明できる。⑦再評価、メインテナンス、SPTを説明できる。

*歯科医師として30年以上の実務経験を持つ担当教員による授業。								
【授業	計画】							
			9/28	歯と歯周組織の構造と機能を理解し、健康な状態と病的な状態を図示して説明できる。				
			2	10/5	歯周疾患の原因と分類を理解することで、歯肉 炎と歯周炎の違いを説明できる。			
			3	10/12	プラークの形成過程について理解し、プラークと 歯周病の関連を説明できる。			
			4		歯肉炎と歯肉増殖症、その病態と違いについて 説明できる。			
			5	10/96	歩国次の公類な理解! それごれの信能しその			
			6	11/2	歯周基本治療、メインテナンスを理解し、説明できる。			
			7	11/9	プラークコントロールの重要性とモチベーションの関連について理解し、説明できる。			
			8	11/16	ブラッシングテクニックのポイントを理解し、説明できる。			
			9	11/30	歯周疾患治療法の補助的清掃用具の種類とその特徴を理解し、説明できる。			
			10	12/7	SRPの重要性を理解し、その目的と治療上のポイントを説明できる。			
			11	12/14	歯周外科療法の分類を学び、それぞれの目的 と特徴を説明できる。			
			12	1/11	歯周治療と口腔機能回復治療を学習し、その 意義を説明できる。			
			13	1/18	歯周疾患治療法におけるメインテナンス、SPTの 意義とそのポイントを学び、説明できる。			
			14	1/25	振り返り。ペリオドンタルメディシンの概念を再度 履修し、歯周治療の実際を説明できる。			
			15	2/1	後期期末試験			
			16	2/8	後期期末試験解説・振り返り			
学習上	の注意	感染性疾患で生活習慣病の歯周病は、成人の約80%以上が罹患しており歯の喪失の主因である。講義では歯周病の原因、治療、ならびに予防について学修する。歯周病の予防、治療、メインテナンスにおいて、歯科衛生士の果たす役割は極めて大きく、治療現場で中心となって活躍することを認識する。						
評価	方法	後期期末試験(80%)、および小テストと受講態度	(20%)					
教和	書	歯周病学/歯科衛生学シリーズ(医歯薬出版)	参	考書	臨床歯周病学 第2版(医歯薬出版)			

23	区分	専門分野	形式	講義	前期•木曜日
授業科目名		成人歯科学Ⅱ(修復・歯内)	単位	立数	2
担当教員		寺中 敏夫	履修	年次	口腔 2年次

【概要】歯科の二大疾患の一つであるう蝕と他の硬組織疾患、およびこれらに継発して発症する歯髄と根尖歯周組織の疾患の種類と病態、検査法、歯の切削法、修復法、根管治療法、ならびに治療に必要な前準備等の総括的事項について理解・修得し、QOLの延伸に寄与することを学ぶ。

【到達目標】①う蝕などの硬組織疾患の種類、診査法およびリスクファクターについて説明できる。②う蝕・根管治療の準備について理解し、説明できる。③修復・根管治療法の種類と特徴およびメインテナンスを説明できる。④治療器具を説明できる。⑤根尖性歯周炎の診断と治療および必要な器具を説明できる。

および	説明できる。 ③修復・依官石原伝の種類と特徴およびパインアアンスを説明できる。 ④石原辞具を説明できる。 ③依天性歯周炎の診断と石原および必要な器具を説明できる。 ③依天性歯周炎の診断と石原および必要な器具を説明できる。								
【授業									
1	4/6	修復学の概要を理解し、歯の硬組織疾患の基 礎、診査法と臨床応用を説明できる。							
2	4/13	う蝕進行と再石灰化を説明できる。 切削器具を説明できる。 窩洞を説明できる。							
3	4/20	グラスアイオノマーセメント修復法の基礎と臨床 を学び、特徴と治療上の注意点を説明できる。							
4	4/27	コンポジットレジン修復法についてその硬化(重合)メカニズムを説明できる。							
5		接着性コンポジットレジン修復法の接着機構について学び、治療上の注意点を説明できる。							
6		接着性コンポジットレジン修復法の操作手順、補助法を学び、治療上の注意点を説明できる。							
7	5/25	インレー修復法の特徴について学び、コンポジッ トレジン修復法との違いを説明できる。							
8	6/1	歯内療法学の意義と目的を理解し、歯髄の構造 とその機能について説明できる。							
9	6/8	種々な歯髄疾患の臨床的な特徴を学習し、それぞれの臨床的な違いについて説明できる。							
10	6/15	歯髄疾患に対する治療法を学び、その意義と必要な器具を説明できる。							
11	6/22	抜髄法を学び、その意義と必要な器具を説明できる。							
12	7/6	根尖性歯周炎の分類を学び、臨床的な特徴と違いを説明できる。							
13	7/13	根尖性歯周炎の治療法を学び、その意義と治療 に必要な器具について説明できる。							
14	7/20	振り返り、症例検討							
15	8/3	前期期末試験							
16	8/10	前期期末試験の解説・振り返り							
学習上	主にう蝕治療(修復)、および歯髄疾患と根尖性歯周炎(歯内療法)の治療に必要な知識、手順、手技を学習し、治療現場で歯科衛生士としての業務を遂行できる能力を修得する。								
評価	方法	前期期末試験(80%)、および小テストと受講態度(20%)							
教科	斗書	歯科衛生学シリーズ 歯の硬組織・歯髄疾患 保 存修復学・歯内療法(医歯薬出版)	参考	き書	保存修復学 第7版 医歯薬出版 歯内治療学 第5版 医歯薬出版				

24	区分	専門分野	形式	講義	前期•月曜日
授業科目名		成人歯科学Ⅲ(補綴)	単位数 2		2
担当教員		三浦 英司	履修	年次	口腔 2年次

う蝕、歯周病や外傷などにより歯質が崩壊あるいは歯や顎を喪失する。補綴治療はこの様な場合にクラウン・ブリッジ、全部床 義歯、部分床義歯、インプラントなどの人工物で補うことである。これら補綴装置の特徴、意義、目的からメンテナンスについて 理解する。

*歯科医師として30年以上の実務経験を持つ担当教員による授業。

【授業	計画】							
1	4/10	I 編 補綴歯科治療の基礎 1章 歯科補綴の概要						
2	4/17	・補綴歯科治療の方法と補綴装置・補綴治療における衛生士の役割						
3	4/24	2章 補綴歯科治療の基礎知識						
4	5/8	II 編 補綴歯科治療の実際と衛生士の役割 1章 補綴歯科における検査						
5		2章 クラウン・ブリッジ治療・クラウン・ブリッジ治療の概要						
6	5/22	・クラウンブ・リッジ治療治療の流れと診療の補助						
7	5/29	3章 有床義歯治療・全部床義歯治療の概要						
8	6/5	・全部床義歯治療の流れと診療の補助						
9	6/12	•部分床義歯治療の概要						
10	6/19	・部分床義歯治療の流れと診療の補助						
11	6/26	4章 インプラント治療・インプラント治療の概要						
12	7/3	・インプラント治療の流れと診療の補助						
13	7/10	5章 特殊な口腔内装置を用いる治療 6章 補綴歯科治療における機材の管理						
14	7/24	まとめ						
15	7/31	前期期末試験						
16	8/7	試験の解説、振り返り						
学習上の注意 予習・復習を行うことが望ましい。随時、確認のたる		めの小テストを	行う。					
評価方法 本試験(90%)、小テストを含む授業態度等(10%)		本試験(90%)、小テストを含む授業態度等(10%)						
教科書 第2版」(医歯薬出版社) 歯科		歯科衛生学シリーズ「咀嚼障害・咬合異常1 歯科補綴第2版」(医歯薬出版社) 歯科衛生士のための補綴科アシストハンドブック第2版(学建書院)	参考書					

25	区分	専門分野	形式	講義	後期•木曜日
授業科目名		高齢者歯科学(含、先端歯科学)	単位	立数	2
担当教員		元開 富士雄	履修	年次	口腔 2年次

老化の概念を把握し、老化の社会性と心理と身体におけるプロセスを理解することで、老化における口腔機能の役割に重要性を理解する。また、口腔ケアの2面性を知りセルフプラークコントロールと口腔機能の低下防止の対応ができるようにする。介護者の口腔ケアにおける注意点と口腔ケアの実践を知る。 *歯科医師として30年以上の実務経験を持つ担当教員による授業。

【授業	計画】				
IIX.	pr [Eq.]		1	9/28	老化学1 超高齢社会が目指す社会システム
			2	10/5	老化学2 障害発達理論と健康の概念
			3	10/12	身体と心の老化 1 老化と加齢
			4	10/19	身体と心の老化 2 老化の全身変化
			5	10/26	身体と心の老化 3 老化と脳と心の変化
			6	11/2	高齢者の全身疾患
			7	11/9	加齢による口腔内変化
			8	11/16	高齢者の口腔内疾患
			9	11/30	高齢者の評価
			10	12/7	高齢者の薬剤服用
			11	12/14	高齢者の口腔ケアの基本
			12	1/11	全身疾患を持つ介護者の口腔衛生管理
			13	1/18	介護者の口腔衛生指導
			14	1/25	介護者への摂食嚥下の介助
			15	2/1	後期期末試験
			16	2/8	高齢者の口腔管理まとめ(口腔機能システム)
学習上の注意		スライドおよびプリントによる			
評価	方法	試験およびレポートにより評価			
教科書		歯科衛生士講座 高齢者歯科学(監著 森戸光 彦)	参	考書	

26	区分	専門分野	形式	講義	前期·火曜日
授業科目名		障害者歯科学	単位	立数	2
担当教員		篠塚 修	履修	年次	口腔 2年次

障害の概念を理解するとともに障害の種類、身体的、心理的な特徴を把握する。障害者の歯科診療ならびに口腔衛生指導に 必要な基本的知識を習得する。 *歯科医師として30年以上の実務経験を持つ担当教員による授業。

【授業	計画】						
1	4/11	障害の概念・分類					
2	4/18	障害者の身体的・心理的特徴 (知的能力障害)					
3	4/25	障害者の身体的・心理的特徴 (ダウン症候群 1)					
4	5/9	障害者の身体的・心理的特徴 (ダウン症候群 2)					
5	5/16	障害者の身体的・心理的特徴 (自閉スペクトラム症 1)					
6	5/23	障害者の身体的・心理的特徴 (自閉スペクトラム症 2)					
7	5/30	障害者の身体的・心理的特徴 (脳性麻痺・重症心身障害)					
8	6/6	障害者の身体的・心理的特徴 (筋ジストロフィー・てんかん)					
9	6/13	障害者の身体的・心理的特徴 (視覚障害・聴覚障害)					
10	6/20	障害者の行動調整法 1					
11	6/27	障害者の行動調整法 2・地域における障害者 歯科					
12	7/4	障害者歯科における口腔衛生指導・摂食嚥下機 能の発達と障害 1					
13	7/11	摂食嚥下機能の発達と障害 2					
14	7/18	講義のまとめ					
15	8/1	前期期末試験					
16	8/8	前期期末試験解説					
学習上	の注意	注意 講義後は各自復習して下さい。					
評価	方法	期末試験に日頃の受講態度等を加味して評価す	る。				
教科	斗書	「歯科衛生学シリーズ 障害者歯科学 初版」 医歯薬出版	参考書	「スペシャルニーズデンティストリー 障害者歯科 第2版」 医歯薬出版			

27	区分	専門分野	形式	講義	前期•木曜日
授業科目名		小児歯科学	単位	立数	2
担当教員		元開 富士雄	履修	年次	口腔 2年次

口腔から子供を全体として捉えることで包括的な歯科診療体系を実践できるようにする。 小児の歯科治療や予防に対する知識だけでなく、子供の背景にある生活や環境から予防を実践できるようにする。 また、個々の子供の感覚入力による環境適応能力を把握することで診療がスムーズに運ぶようになることを目指す。

*歯科医師として30年以上の実務経験を持つ担当教員による授業。

T I S VIII	-1 1				
【授業	計画】				
1	4/6	小児歯科概論 口を通して子供の全体を掴む			
2	4/13	小児の身体発達と心理発達			
3	4/20	小児の口腔発達1 顎口腔と歯列咬合の発達			
4	4/27	小児の口腔発達2 口腔機能発達			
5	5/11	小児の歯と口の疾病1 先天疾患と軟組織疾患			
6	5/18	小児の歯と口腔疾病2 小児のう蝕			
7	5/25	小児の歯と口腔の疾病3 歯列咬合不正			
8	6/1	小児の取り扱い			
9	6/8	小児の口腔衛生指導と治療計画			
10	6/15	小児の栄養指導と予防			
11	6/22	小児のう蝕治療			
12	7/6	小児の咬合管理			
13	7/13	発達障害の概念			
14	7/20	発達障害児の取り扱い/口腔習癖			
15	8/3	前期末試験			
16	8/10	小児歯科学の実践のまとめ			
学習上	の注意	特になし、講義はスライドおよびプリントによる			
評価	方法	本試験およびレポート提出により評価			
教科	斗書	歯科衛生学シリーズ 小児歯科(医歯薬出版)	参	考書	教科書以外に必要なものは配布する

28	区分	専門分野	形式	講義	前期·火曜日
授業科目名		歯科矯正学	単位数		2
担当教員		小野 将弘	履修年次		口腔 2年次

矯正歯科学の定義や知識と概念、治療の必要性、利益とリスクを学習する。また、一般的な矯正治療の流れ、臨床で歯科衛生士が行う手技、業務を学び、患者中心の医療とチーム医療、チームの一員としての歯科衛生士の役割を学ぶ。 *歯科医師として15年以上の実務経験を持つ担当教員による授業。

【授業	計画】			
1	4/11	I 編 矯正歯科治療に関する基礎知識 1章 矯正歯科治療の概要		
2	4/18	2章 成長発育 前編		
3	4/25	2章 成長発育後編 3章 正常咬合と不正咬合 前編		
4	5/9	3章 正常咬合と不正咬合 後編		
5	5/16	4章 矯正歯科診断		
6	5/23	5章 矯正歯科治療と"力" -矯正力・顎整形力・保定-		
7	5/30	6章 矯正装置		
8	6/6	Ⅱ 編矯正歯科治療の実際 1章 上下顎の前後的関係の不調和 2章 上下顎の垂直的関係の不調和(過蓋咬合・開咬) 3章 成人矯正		
9	6/13	4章 口腔顔面の形成異常と変形 5章 歯の埋伏と歯数の異常		
10	6/20	復習① II編6章 矯正歯科治療時のトラブルへの対応 II編7章 健康保険が適用される矯正歯科治療		
11	6/27	Ⅲ編 矯正歯科臨床における歯科衛生士の役割 1章矯正歯科診断にかかわる業務 2章 矯正歯科診療時の業務 前編		
12	7/4	2章 矯正歯科診療時の業務 中編		
13	7/11	2章 矯正歯科診療時の業務 後編		
14	7/18	3章 矯正歯科患者と口腔保健管理 4章 口腔筋機能療法		
15	8/1	前期期末試験		
16	8/8	復習② マウスピースを用いた矯正治療		
学習上	:の注意	授業開始時に毎回小テストを行います、出題範囲 欠席の場合は小テストは0点となります。日頃から		
評価	方法	授業態度 小テスト 筆記試験		
教科	斗書	歯科衛生学シリーズ 咀嚼障害・咬合異常2 歯 科矯正 医歯薬出版株式会社	参考書	

29	区分	専門分野	形式	講義	前期•月曜日
授業科目名		口腔外科学(含、麻酔学)	単位	立数	2
担当教員		富田 美穂子	履修	年次	口腔 2年次

【概要】顎・顔面領域の外科的疾患について、その原因、診断、症状、治療法および予後について理解する。各疾患の特徴を 捉え、口腔症状と全身疾患の関連性について理解する。口腔外科手術の準備、介助および片付けがスムーズに実施できる知

識を身につける。局所麻酔や全身麻酔の概念と作用機序を学ぶ。 【到達目標】顎・顔面領域の外科的疾患の症状や治療法を理解し、手術の介助が行えると同時に、患者に寄り添える医療人を 目指す。

*歯科	*歯科医師として30年以上の実務経験を持つ担当教員による授業。							
【授業	計画】							
1	4/10	口腔外科の概要						
2	4/17	基礎疾患と歯科治療						
3	4/24	口腔領域の先天異常と発育異常						
4	5/8	顎・口腔領域の損傷・機能障害						
5	5/15	口腔粘膜の病変						
6	5/22	炎症性疾患						
7	5/29	顎・口腔領域の嚢胞性疾患						
8	6/5	顎・口腔領域の腫瘍①						
9	6/12	顎・口腔領域の腫瘍②						
10	6/19	唾液腺疾患•神経疾患						
11	6/26	口腔外科診療の実際						
12	7/3	歯科麻酔(局所麻酔)						
13	7/10	歯科麻酔(全身麻酔)						
14	7/24	臨床における歯科衛生士のかかわり						
15	7/31	前期期末試験						
16	8/7	前期試験の解説とまとめ						
学習上	口腔領域の外科疾患の特徴を理解するためには、何度も繰り返し勉強することが必要である。講義内容は教科書で予習し、講義が終了した後は復習をすること。確認のために、定期的に小テストを行う。							
評価	方法	期末試験(80%)・小テスト(20%)						
教科	斗書	歯科衛生学シリーズ 顎・口腔粘膜疾患「口腔 外科・歯科麻酔」(医歯薬出版)	参	考書				

30	区分	専門分野	形式	講義	前期•月曜日
授業科目名		歯科予防処置論	単位	立数	2
担当	教員	鯉江 夏美	履修	年次	口腔 1年次

- 口腔疾患を予防し、人々の歯・口腔の健康を維持・増進させるための専門的な知識を修得する。 ① 歯周病の発生・原因
- ② 歯周病や兄上 が囚 ② 歯周病予防 ③ う蝕の発生・原因 ④ う蝕予防処置について学ぶ。 * 歯科衛生士として10年以上の実務経験を持つ担当教員による授業

*歯科衛生士として10年以上の実務経験を持つ担当教員による授業。							
【授業計画】							
1	4/10	歯科予防処置論の概要・歯科予防処置の基礎 知識					
2	4/17	歯・歯周組織の検査について					
3	4/24	SRPに必要な診査器具について					
4	5/8	SRPに必要な器具・手用スケーラーについて					
5	5/15	ハンドスケーラーの操作方法					
6	5/22	歯面清掃・研磨					
7	5/29	歯周の総まとめ					
8	6/5	中間試験/振り返り					
9	6/12	う蝕予防処置法の基礎知識					
10	6/19	リスクテスト①					
11	6/26	リスクテスト②					
12	7/3	フッ化物応用法①					
13	7/10	フッ化物応用法②					
14	7/24	メインテナンス・予防プログラム					
15	7/31	前期期末試験					
16	8/7	解答・解説					
学習上の注意 予習は教科書を読んでおくこと。復習は学習ノート・プリントを確認しておくこと							
評価	評価方法 授業態度、期末試験、中間試験で総合的に評価する						
		歯科衛生学シリーズ 歯周病学』全国歯科 衛生士教育協議会監修、医歯薬出版					

31	区分	専門分野	形式	実習	後期•金曜日
授業科目名		歯科予防処置 I (歯周病予防1)	単位数		1
担当教員		鯉江 夏美	履修	年次	口腔 1年次

- 歯周病を予防し、人々の歯・口腔の健康を維持・増進させるための専門的な知識を修得する。 ①歯・歯周組織の検査

- ②手用スケーラーの種類と特徴について ③シックルスケーラーの操作方法について
- ④キュレットの操作方法について学び、スケーラー操作等はマニキンを使用する。 *歯科衛生士として10年以上の実務経験を持つ担当教員による授業。

【授業計画】				(各3時間)			
		1	9/22	歯・歯周組織の検査・プローブの操作につい て			
		2	9/29	手用スケーラー操作の基礎			
		3	10/6	歯面研磨 (外部講師)			
		4	10/20	マニキン① 執筆状変法把持法について シックルスケーラー操作			
		5	10/27	マーキンの前歯部の場件について			
		6	11/10	マニキン③前歯部の操作について シックルスケーラー操作			
		7	11/17	マニキン(4) 前歯部総復習 シックルスケーラー操作・エキスプローラー操 作			
		8	11/24	マニキン⑤下顎臼歯部の操作について シックルスケーラー・エキスプローラー操作			
		9	12/1	マニキン⑥下顎臼歯部の操作 シックルスケー ラー・エキスプローラー・プローブ操作			
		10	12/8	マニキン⑦上顎臼歯部の操作 シックルスケーラー・エキスプローラー・プローブ・操作			
		11	12/15	マニキン⑧キュレットの基本操作 プローブ・操作			
		12	1/12	マニキン⑨キュレットの操作上顎・プローブ・ 操作			
		13	1/19	マニキン⑩キュレットの操作下顎・プローブ・ 操作			
		14	1/26	マニキン⑪ 総まとめ シックル・キュレッ ト・エキスプローラー・プローブ操作			
		15	2/2	後期期末試験			
		16	2/9	解答・解説			
学習上の注意	予習は教科書を読んでスケーラー操作の練習をする。復習は学習ノートをみてスケーラー操作の練習をする。						
評価方法	本試験 (60%) および実技試験や授業態度 (40%)						
教科書	『歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科 保健指導論』全国歯科衛生士教育協議会監 修、医歯薬出版	参考書		『歯科衛生学シリーズ 歯周病学 第2版』全国 歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版			

32	区分	専門分野	形式	実習	前期•木曜日
授業科目名		歯科予防処置Ⅱ(歯周病予防2)	単位	立数	1
担当	教員	鯉江 夏美	履修	年次	口腔 2年次

歯周病を予防し、人々の歯・口腔の健康を維持・増進させるための専門的な知識・技術を修得する。次に挙げる①~④の項目 を到達目標とする。
①キュレットスケーラーの特徴を理解する。②キュレットスケーラーの操作方法等の技術を習得する。
③プロービングによる歯周検査の技術を習得する。④歯面研磨について理解し、実践できる。

- *歯科衛生士として10年以上の実務経験を持つ担当教員による授業。

【授業	計画】	(各3時間)					
1	4/6	マニキン⑭ 下顎臼部キュレット操作 プローブの操作					
2	4/13	マニキン⑮ 下顎臼部キュレット操作 プローブの操作・探針操作					
3	4/20	マニキン⑩ 上顎臼部キュレット操作 プローブの操作					
4	4/27	マニキン⑰ 上顎臼部キュレット操作 プローブの操作・探針操作					
5	5/11	マニキン® 上下顎臼部キュレット操作 プローブの操作					
6	5/18	マニキン⑩ 全顎キュレット操作 プローブの操作・探針操作					
7	5/25	マニキン② 全顎臼部キュレット操作 プローブの操作・探針操作					
8	6/1	歯面研磨① 上下顎前歯部					
9	6/8	歯面研磨② 上顎臼歯部					
10	6/15	歯面研磨③ 下顎臼歯部					
11	6/22	歯面研磨④ 全顎臼歯部					
12	7/6	マニキン総復習①					
13	7/13	マニキン総復習②					
14	7/20	マニキン総復習③					
15	8/3	前期期末試験					
16	8/10	解答・解説					
学習上の注意		歯周病予防Iを確認しながら、実技を行い、相互実習へとつなげるため、復習をすること。					
評価	方法	期末試験 (60%) および実技試験や授業態度 (40%)					
教科書		『歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置・歯科保健指導論』全国歯科衛生士教育協議会監修、 医歯薬出版	参考書				

33	区分	専門分野	形式	実習	前期•水曜日
授業和	授業科目名 歯科予防処置Ⅲ(歯周病予防3)				1
担当	教員	鯉江 夏美	履修	年次	口腔 2年次

歯周病を予防し、人々の歯・口腔の健康を維持・増進させるための専門的な知識・技術を修得する ① 必要な器材の準備ができる。 ② 口腔内の診査ができる。

- ③ シックルスケーラーの操作方法が説明できる ④ キュレットの操作方法が説明できる。 ⑤ 超音波スケーラー操作ができる。 ⑥ エアスケーラーの操作ができる。

(f) 医) *歯科	⑦ 医療安全を考えて実施する。 8 相互実習で技術の向上に努める。 *歯科衛生士として10年以上の実務経験を持つ担当教員による授業。									
【授業	計画】	(各3時間)	_					_		
1	4/12	相互実習 口腔内診査・歯周組織検査								
2	4/19	歯面研磨								
3	4/26	相互スケーリング1シックル:上顎臼歯部								
4	5/10	相互スケーリング2シックル:下顎臼歯部								
5	5/17	相互スケーリング 3 キュレット: 上顎臼歯部								
6	5/24	相互スケーリング 4 キュレット: 下顎臼歯部								
7	5/31	超音波スケーラー 1(外部講師)								
8	6/7	超音波スケーラー 2								
9	6/14	エアスケーラー 1								
10	6/21	エアスケーラー 2								
11	6/28	相互スケーリング 上顎 シックル、キュレット								
12	7/5	相互スケーリング 下顎 シックル、キュレット								
13	7/12	相互スケーリング 全顎 シックル、キュレット								
14	7/19	相互スケーリング まとめ 実技演習								
15	8/2	前期期末試験								
16	8/9	解答•解説								
学習上	の注意	部位別のポジション(術者・患者)および使用スケーラーについて確認しておく.								
評価	方法	期末試験(60%)および実技試験、授業態度(40%)により評価します。								
教和	斗書	『歯科衛生学シリーズ歯科予防処置論・歯科保健指導論』全国歯科衛生士教育協議会 監修、医歯薬出版 『歯科衛生学シリーズ歯周病学 第2版』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版								

34	区分	専門分野	形式	実習	前期•金曜日
_{授業科目名} 歯科予防処置IV(う蝕予防処置)		歯科予防処置IV(う蝕予防処置)	単位	立数	1
担当	担当教員 鯉江 夏美				口腔 2年次

う蝕を予防し、人々の歯・口腔の健康を維持・増進させるために、う蝕予防処置法(フッ化物歯面塗布法、小窩裂溝填塞法)やう蝕関連項目(う蝕活動性試験、フッ化ジアンミン銀塗布法、PMTC)の目的、方法、所要条件、実施上の注意事項等の知識及び専門的な技術、態度を修得する。 *歯科衛生士として10年以上の実務経験を持つ担当教員による授業。

【授業	計画】	(各3時間)	
以未)	
1	4/7	う蝕予防処置の基礎		
2	4/14	フッ化物の基礎		
3	4/28	フッ化物の応用①		
4	5/5	フッ化物の応用②		
5	5/12	フッ化物歯面塗布法①		
6	5/19	フッ化物歯面塗布法②		
7	5/26	フッ化ジアンミン銀の応用		
8	6/2	小窩裂溝填塞法①		
9	6/9	小窩裂溝填塞法②		
10	6/16	う蝕活動性試験①		
11	6/23	う蝕活動性試験②		
12	6/30	う蝕活動性試験③		
13	7/7	PMTC		
14	7/14	メインテナンス		
15	7/28	前期期末試験		
16	8/4	試験解説・まとめ		
学習上の注意 教科書や授業資料を復習して知識と技術を身に		付ける。		
評価方法 期末試験(80%)、提出物·授業態度(20%)				
教	『歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保 健指導論』全国歯科衛生士教育協議会監修、医 歯薬出版			

35	区分	専門分野	形式	講義	前期·火曜日
授業和	斗目名	口腔保健管理法	単位	拉数	2
担当	教員	広川 香	履修	年次	口腔 2年次

各ライフステージ別の一般的特徴、口腔の特徴及び歯科保健行動を理解、説明できる。 健康と疾病について理解し、口腔の健康を維持・増進するための知識、技術および態度を修得する。 *歯科衛生士として30年以上の実務経験を持つ担当教員による授業。

【授業	計画】						
1	4/11	妊産婦の口腔保健管理					
2	4/18	乳幼児期の口腔保健管理					
3	4/25	学童期期の口腔保健管理					
4	5/9	青年期の口腔保健管理					
5	5/16	歯周疾患の継続管理 喫煙					
6	5/23	歯周疾患の継続管理 糖尿病					
7	5/30	保存・矯正治療後・補綴物装着後の継続管理					
8	6/6	大規模災害時の口腔管理					
9	6/13	周術期の口腔管理					
10	6/20	周術期の口腔管理・病棟、チーム医療					
11	6/27	高齢者の口腔保健管理					
12	7/4	要介護者の口腔保健管理					
13	7/11	要介護高齢者(居宅・施設における)における継 続管理					
14	7/18	地域歯科保健活動における継続管理					
15	8/1	前期期末試験					
16	8/8	試験解説・まとめ					
学習上	:の注意	:意 1年次科目(歯科予防処置・歯科診療補助・歯科保健指導)について、復習しておくこと。					
評価	ī方法	本試験90%·提出物·授業態度10%					
樹科衛生学シリーズ「歯科予防処置・歯科保健指導論」全国歯科衛生士教育協議会							

36	区分	専門分野	形式	講義	後期•月曜日
授業和	科目名	歯科保健指導論 I	単位	立数	2
担当	教員	広川 香	履修	年次	口腔 1年次

多様な生活習慣・生活環境・健康状態の人に、専門的な立場からの歯科保健指導のための知識・技術を学び、修得する。 *歯科衛生士として30年以上の実務経験を持つ担当教員による授業。

授業計画】				
		1	9/25	歯科保健指導の概要
		2	10/2	口腔清掃指導法1
		3	10/16	口腔清掃指導法2
		4	10/23	口腔清掃指導法3
		5	10/30	口腔清掃指導法4
		6	11/6	対象者の把握・記録法1
		7	11/13	対象者の把握・記録法2
		8	11/20	対象者の把握・記録法3
		9	11/27	対象者の把握・記録法4
		10	12/4	対象者の把握・記録法5
		11	12/11	歯科保健指導·対処法1
		12	12/18	歯科保健指導·対処法2
		13	1/15	歯科保健指導·対処法3
		14	1/22	歯科衛生士過程
		15	1/29	後期期末試験
		16	2/5	試験解説・振り返り
学習上の注意	教科書を読み、実際の流れと実施のポイントを理解	解してお	3 <₀	
評価方法	本試験80%、提出物・実習態度20%			
教科書	歯科衛生学シリーズ「歯科予防処置論・歯科保健 指導論」全国歯科衛生士教育協議会編,医歯薬 出版		考書	

37	区分	専門分野	形式	実習	通年
授業	科目名	歯科保健指導論Ⅱ	単位	Z 数	2
担当	á教員	広川 香 ・ 眞田 咲弥	履修	年次	口腔 3年次

集団を対象とした歯科知識、技術および態度を修得する。集団を対象にした指導目標、指導案、教材を作成し、地域、教育現場で、コミュニケーションや実践方法を学ぶ。 *歯科衛生士として20年以上の実務経験を持つ担当教員による授業。

1 1型 分	∌Last¶	1						
【授業	計画】	(眞田)			(広川)		I	(広川)
1	4/6	歯科衛生過程①	16	9/27	ライフステージ別 妊産婦	32	11/15	ライフステージ別 周術期
2	4/6	歯科衛生過程①	17	9/27	ライフステージ別 妊産婦	33	11/15	ライフステージ別 高齢者
3	4/13	歯科衛生過程②	18	10/4	ライフステージ別 妊産婦	34	11/21	ライフステージ別 高齢者
4	4/13	歯科衛生過程②	19	10/4	ライフステージ別 妊産婦	35	11/21	ライフステージ別 高齢者
5	5/18	歯科衛生過程③	20	10/11	ライフステージ別 乳幼児	36	11/22	ライフステージ別 要介護者
6	5/18	歯科衛生過程③	21	10/11	ライフステージ別 乳幼児	37	11/22	ライフステージ別 要介護者
7	6/1	歯科衛生過程④	22	10/18	ライフステージ別 乳幼児	38	11/28	ライフステージ別 要介護者
8	6/1	歯科衛生過程④	23	10/18	ライフステージ別 乳幼児	39	11/28	ライフステージ別 要介護者
9	6/15	歯科衛生過程⑤	24	10/25	ライフステージ別 学童期	40		ライフステージ別 摂食嚥下
10	6/15	歯科衛生過程⑤	25	10/25	ライフステージ別 学童期	41	11/29	ライフステージ別 摂食嚥下
11	7/13	歯科衛生過程⑥	26	10/31	ライフステージ別 学童期	42	12/5	ライフステージ別 摂食嚥下
12	7/13	歯科衛生過程⑥	27	10/31	ライファテージ別	43	12/5	ライフステージ別 摂食嚥下
13	7/20	ライフステージ別 成人・歯周病患者	28	11/8	ライフステージ別 青年期	44	12/6	後期期末試験
14	7/20	ライフステージ別 成人・歯周病患者	29	11/8	ライフステージ別 青年期	45	12/13	解答解説
15	8/10	ライフステージ別 補綴・矯正患者	30	11/14	ライフステージ別 周術期	46	12/13	総まとめ
			31	11/14	ライフステージ別 周術期		I	
学習上	:の注意	歯科保健指導論で学んだこ	とを復	習してお	3<			
評価	i方法	総合期末試験80%、授業態度、提出物20%						
教科	数科書 歯科衛生学シリーズ「歯科予防処置論・歯科保健指導論、 改訂版」全国歯科衛生士教育協議会編、医歯薬出版 参考書							

38	区分	専門分野	実習	前期•水曜日	
授業科	斗目名	歯科保健指導論Ⅲ	単位	立数	1
担当	教員	広川 香	履修	年次	口腔 3年次

集団を対象とした歯科知識、技術および態度を修得する。集団を対象にした指導目標、指導案、教材を作成し、地域、教育現場で、コミュニケーションや実践方法を学ぶ。 *歯科衛生士として30年以上の実務経験を持つ担当教員による授業。

【授業	計画】	(各3時間)			
1	4/12	集団の歯科衛生教育 授業計画立案			
2	4/19	集団の歯科衛生教育 対象者の把握			
3	4/26	集団指導 指導案			
4	5/10	集団指導 指導案			
5	5/17	集団指導 指導案 原稿			
6	5/24	集団指導 原稿			
7	5/31	集団指導 原稿 教材			
8	6/7	集団指導 原稿 教材			
9	6/14	集団指導 教材			
10	6/21	集団指導 教材			
11	6/28	集団指導 教材			
12	7/5	集団指導 教材			
13	7/12	集団指導 仕上げ			
14	7/19	集団指導 予行演習			
15	8/2	前期末試験			
16	8/9	集団指導 予行演習 仕上げ			
学習上	学習上の注意 歯科保健指導論で学んだことを復習しておく				
評価	評価方法 総合期末試験80%、授業態度、提出物20%				
教和		歯科衛生学シリーズ「歯科予防処置論・歯科保健 指導論,改訂版」全国歯科衛生士教育協議会 編、医歯薬出版	参考書		

39	区分	専門分野	形式	講義	後期
授業	授業科目名				2
担当	i教員	鯉江 夏美	履修	年次	口腔 3年次

日本の食生活の状況と現代の食生活の問題点などを学ぶ。 またライフステージ別に、歯科衛生士として歯科保健指導に食生活指導を取り入れる事が出来る。

*歯科衛生士として10年以上の実務経験を持つ担当教員による授業。

【授業	計画】								
		1	9/27	食生活の概要 (1)					
		2	10/4	食生活の概要 (2)					
		3	10/1	1 食生活指針の実践					
		4	10/1	8 ライフステージ別の食生活指導①					
		5	10/2	5 ライフステージ別の食生活指導②					
		6	10/3	0 ライフステージ別の食生活指導③					
		7	11/6	ライフステージ別の食生活指導④					
		8	11/8	生活習慣病					
		9	11/1	3 歯周疾患関連全身疾患					
		10	11/1	5 食生活指導の実践(1)					
		11	11/2	0 食生活指導の実践(2)					
		12	11/2	2 食生活指導の実践(3)					
		13	11/2	7 食生活指導の実践(4)					
		14	11/2	9 食生活指導の実践(5)					
		15	12/6	後期期末試験					
		16	12/1	3 栄養指導の総まとめ					
学習上	の注意	歯科保健指導の知識との総合知識をもとに、食生活る。 また、国家試験にも通づる分野のため十分に予習・							
①期末試験 ②出席状況、レポート提出、実習態度									
教和	当 歯科衛 歯科衛 参考書								

40	区分	専門分野	形式	講義	前期•火曜日
授業和	授業科目名 歯科診療補助論 I				2
担当	教員	眞田 咲弥	履修	年次	口腔 1年次

- 歯科診療の補助を行う上での基本的な専門知識を習得する。
- ①歯科診療補助の規定および業務範囲を理解する。

- ① 圏科診療補助の規定および業務範囲を理解する。 ②滅菌・消毒・洗浄の基本を習得する。 ③ 標準予防策や偶発事故の防止について理解、対応できる。 ④ 廃棄物の処理方法など診療室の管理ができる能力を養う。 ⑤ 歯科衛生士として周囲と円滑なコミュニケーションを図るための基本的な作法を習得する。 * 歯科衛生士として20年以上の実務経験を持つ担当教員による授業。

	k歯科衛生士として20年以上の実務経験を持つ担当教員による授業。 授業計画】								
【授業									
1	4/11	オリエンテーション・歯科衛生士の役割							
2	4/18	歯科診療補助の概要							
3	4/25	医療安全							
4	5/9	感染予防							
5	5/16	手指消毒							
6	5/23	滅菌と消毒1							
7	5/30	滅菌と消毒2							
8	6/6	医療廃棄物/中間試験							
9	6/13	歯科診療室の環境							
10	6/20	患者対応							
11	6/27	共同動作							
12	7/4	器具の受け渡し							
13	7/11	バキュームテクニック							
14	7/18	まとめ							
15	8/1	前期期末試験							
16	8/8	期末試験の振り返り							
学習上の注意		予習は教科書で行う。 復習は配布プリント・ノートを中心に行う。							
評価方法 中間試験(30%)、期末試験(60%)、その他授業態度・レポート提出(10%)による総合評価									
歯科衛生学シリーズ『歯科診療補助論』 (医歯薬出版株式会社)			参考書						

41	区分	専門分野	形式	実習	後期•水曜日
授業和	授業科目名 歯科診療補助論Ⅱ				2
担当	担当教員 真田 咲弥・富田 そら				口腔 1年次

実習を通じて、歯科材料や器具の取り扱いについての基礎的な理論と技術を習得する。 ①各衛生材料の作成と準備を行える。 ②歯科材料を適切に取り扱うことができる。 ③診療の補助における基本的な技術を習得する。

- *歯科衛生士として20年以上の実務経験を持つ担当教員による授業。

【授業	業計画】 (各6時間)									
以未	h I Ed 1		1	9/27	歯科材料の取り扱い					
			1	3/41	EST 1793 471 V 2 464 7 304 V					
			2	10/4	歯科器具の取り扱い・小材料作成法					
			3	10/11	アルジネート印象材					
			4	10/18	精密印象					
			5	10/25	スタディモデル作製					
			6	11/8	合着用セメント・接着材					
			7	11/15	仮着用セメント・圧排糸					
			8	11/22	仮封材1					
			9	11/29	仮封材2					
			10	12/6	ラバーダム防湿					
			11	12/13	暫間被覆冠作製					
			12	1/10	個人トレー作製					
			13	1/17	口腔内撮影法					
			14	1/24	成形修復材					
			15	1/31	後期期末試験					
			16	2/7	期末試験の振り返り					
学習上	の注意	予習は教科書・配布資料で行う。 復習は、授業プリントを中心に行い、実習内容を整理しておく。								
評価	方法	期末試験(60%)、実習態度(20%)、レポート提出・	実技試	験(20%))による総合評価					
教和	斗書	歯科衛生学シリーズ『歯科診療補助論』 『歯科材料』(医歯薬出版株式会社)	参	考書						

42	区分	専門分野	形式	講義	後期•金曜日
授業	授業科目名 歯科診療補助論Ⅲ				2
担当	i教員	眞田 咲弥	履修	年次	口腔 1年次

- 各種歯科材料の理工学的知識を習得する。 ①歯科材料の種類・取り扱い上の注意点を説明できる。

- ②歯科材料の使用目的を理解する。 ③理論的に知識を習得し、適切に診療補助が出来る。 *歯科衛生士として20年以上の実務経験を持つ担当教員による授業。

【授業	計画】								
	H 1 1 1 1		1	9/22	歯科材料の基礎				
			2	9/29	歯科機器の取り扱い				
			3	10/6	印象材の種類と用途				
			4	10/20	印象材の性質				
			5	10/27	模型用材料				
			6	11/10	合着材・接着剤1				
			7	11/17	合着材・接着剤2				
			8	11/24	仮着用セメント				
			9	12/1	仮封材1				
			10	12/8	ラバーダム防湿・歯肉圧排				
			11	12/15	暫間修復材				
			12	1/12	ワックス				
			13	1/19	金属・セラミック				
			14	1/26	成形修復材				
			15	2/2	後期期末試験				
			16	2/9	期末試験の振り返り				
学習上	の注意	予習は教科書で行う。 復習は、配布プリントを中心に行う。							
評価	方法	期末試験(80%)、授業態度(10%)、小テスト(10%)	による	総合評価	五				
教和	斗書	歯科衛生学シリーズ『歯科診療補助論』 『歯科材料』(医歯薬出版株式会社)	参	考書					

43	区分	専門分野	形式	実習	前期•月曜日 水曜日
授業	科目名	歯科診療補助論IV	単位	立数	2
担当	当教員	眞田 咲弥・広川 香・富田 そら	履修	年次	口腔 2年次

- 歯科診療の補助・介助を安全で適切に行うために診療器具の用途や管理方法を学ぶ。
- ①器具の名称・取り扱いを説明できる。
- ②歯科診療の術式に沿った器具の準備・片付けを行える。 ③歯科診療の補助における歯科衛生士の役割を理解する。
- *歯科衛生士として20年以上の実務経験を持つ担当教員による授業。

【授美	業計画】								
1	4/10	歯科診療器材の管理①	17	5/24	歯科用器具 歯原	周①	33	6/28	歯科用器具 高齢者
2	4/12	歯科診療器材の管理①	18	5/24	歯科用器具 歯原	周①	34	7/3	歯科用器具 高齢者実習
3	4/12	歯科診療器材の管理①実習	19	5/29	歯科用器具 歯原	周①実習	35	7/5	歯科用器具 口腔外科
4	4/17	歯科診療器材の管理②	20	5/31	歯科用器具 歯原	周②	36	7/5	歯科用器具 口腔外科
5	4/19	歯科用器具 保存①	21	5/31	歯科用器具 歯原	周②	37	7/10	歯科用器具 口腔外科実習
6	4/19	歯科用器具 保存①	22	6/5	歯科用器具 歯原	周②実習	38	7/12	歯科用器具 インプラント
7	4/24	歯科用器具 保存①実習	23	6/7	歯科用器具 補網	綴①	39	7/12	歯科用器具 インプラント
8	4/26	歯科用器具 保存②	24	6/7	歯科用器具 補網	綴①	40	7/19	歯科用器具インプラント実習
9	4/26	歯科用器具 保存②	25	6/12	歯科用器具 補網	歯科用器具 補綴①実習		7/19	歯科診療器材の管理③
10	5/8	歯科用器具 保存②実習	26	6/14	歯科用器具 補網	歯科用器具 補綴②		7/24	歯科診療器材の管理④
11	5/10	歯科用器具 歯内①	27	6/14	歯科用器具 補網	綴②	43	8/2	前期期末試験
12	5/10	歯科用器具 歯内①	28	6/19	歯科用器具 補網	綴②実習	44	8/7	歯科診療器材の管理⑤
13	5/15	歯科用器具 歯内①実習	29	6/21	歯科用器具 小り	児	45	8/9	学外実習(GC)
14	5/17	歯科用器具 歯内②	30	6/21	歯科用器具 矯正	Ē	46	8/9	学外実習(GC)
15	5/17	歯科用器具 歯内②	31	6/26	歯科用器具 小り	児矯正実習			
16	5/22	歯科用器具 歯内②実習	32	6/28	歯科用器具 高繭	齢者			
	上の注 意	予習は教科書、配布資料で行う。 復習は授業プリントを中心に行い、実習内容を整理しておく。							
評信	西方法	期末試験(60%)、実習態度(20%)、その他提出物など(20%)による総合評価							
教	科書								ストハンドブック ストハンドブック

44	区分	専門分野	形式	講義	前期•金曜日
授業和	科目名	歯科放射線 · 臨床検査学	単位	立数	2
担当	教員	富田 美穂子	履修	年次	口腔 2年次

【概要】画像診断は日常の歯科診療に不可欠であるため、撮影が円滑に行われるように歯科衛生士が補助する。そのために放射線の性質、画像検査法、診断、放射線による影響、放射線治療について学ぶ。 臨床検査学では、歯科衛生士として習得すべき一般検査業務の概要を理解し、歯科臨床における歯科的検査の意義と方法を学ぶ。

【到達目標】放射線の原理や使用方法を学び、疾患に対するレントゲン撮影の補助ができる。患者の疾患を理解したうえで、適切な検査の概要を説明でき、それらの異常値を判断できる。

【松米	7 == 1 ∈	#i]								
【授業	計画】									
1	4/7	歯科医療と放射線								
2	4/7	X線画像の形成								
3	4/14	歯科におけるX線検査①								
4	4/14	歯科におけるX線検査②								
5	4/28	口内法撮影の実際と歯科衛生士の役割								
6	4/28	パノラマX線撮影の実際と歯科衛生士の役割								
7	5/5	写真処理と画像保管の実際 放射線治療と口腔管理								
8	5/5	歯科放射線講義のまとめ/確認テスト								
9	5/19	臨床検査								
10	5/19	生体検査								
11	6/16	検体検査								
12	6/16	口腔領域の臨床検査								
13	6/30	摂食嚥下関連の検査								
14	6/30	臨床検査学講義のまとめ/確認テスト								
15	7/28	前期期末試験								
16	8/4	前期試験の解説とまとめ								
学習上	:の注意	学習する内容が多いので、講義後は教科書とプリ	学習する内容が多いので、講義後は教科書とプリントを再度確認すること。							
評価方法 期末試験(80%)、確認テスト(20%)										
教科書·参考書		歯科衛生学シリーズ 歯科放射線 (医歯薬出版) 歯科衛生学シリーズ 臨床検査 (医歯薬出版)	参考	書						

45	区分	専門分野	形式	実習	後期	
授業和	科目名	臨床実習 I -1(歯科診療所)	単位数		8	
担当	教員	広川香・鯉江夏美・眞田咲弥	履修年次		口腔 2年次	

臨床の場で歯科衛生士の基本姿勢を学習し、歯科衛生士業務を実践する。 *歯科衛生士として10年以上の実務経験を持つ担当教員による授業。

【授業計画】

I. 提携病院における実習

(実習方法および内容)オリエンテーション時に概要説明を行う。

上記施設は総合歯科、特殊診療科、障害者歯科、小児歯科、矯正科、口腔外科等の診療分野に分かれており、

各学科において実習できるように配当される。

Ⅱ.歯科診療所における実習

(実習場所)東京都内・神奈川県内の歯科診療所

- Ⅲ.全体の行動目標(詳細は実施要項に示す。)
- 1 歯科衛生士の基本姿勢を理解し、実践できる。
- 2 診療体系を理解し、実践できる。
- 3 各科の診療内容を理解する。
- 4 歯科材料取り扱いを実践できる。
- 5 感染予防対策が実践できる。
- 6 他職種連携について理解する。

学習上の注意	歯科予防処置・歯科保健指導・歯科診療補助を復習しておく。				
評価方法	実習先評価80%、実習レポート等20%				
教科書		参考書			

46	区分	専門分野	形式	実習	前期	
授業和	科目名	臨床実習 I -2(歯科診療所)	単位数		8	
担当	教員	広川香・鯉江夏美・眞田咲弥	履修	年次	口腔 3年次	

口腔の専門職として、責任感、誠実性、積極性、協調性、判断力を培い、実践できる能力を養う。コメディカルの一員としての行動を身につける。

*歯科衛生士として10年以上の実務経験を持つ担当教員による授業。

【授業計画】

I. 提携病院における実習

(実習方法および内容)オリエンテーション時に概要説明を行う。

①歯科病院は総合歯科、特殊診療科、障害者歯科、小児歯科、矯正科、口腔外科等の診療分野に分かれており、

各科において実習できるように配当される。

また、口腔外科では病室における実習も含み、看護師の患者さんへの対応なども学習する。

- ②総合病院内の歯科・口腔外科における周術期・入院患者の口腔ケアなど学習する。
- Ⅱ.歯科診療所における実習

(実習場所)東京都内・神奈川県内の歯科診療所

- Ⅲ.全体の行動目標(詳細は実施要項に示す。)
- 1 歯科衛生士の基本姿勢を理解し、実践できる。
- 2 診療体系を理解し、実践できる。
- 3 各科の診療内容を理解する。
- 4 歯科材料取り扱いを実践できる。
- 5 感染予防対策が実践できる。
- 6 他職種連携について理解する。

学習上の注意	歯科予防処置・歯科保健指導・歯科診療補助を復習しておく。				
評価方法	実習先評価80%、実習レポート等20%				
教科書		参考書			

47	区分	専門分野	形式	実習	後期
授業科目名		臨地実習 I (教育施設)	単位数		1
担当	担当教員 広川香・鯉江夏美・眞田咲弥		履修	年次	口腔 3年次

口腔保健の向上を目指して、幼児から生徒に対しての集団歯科保健指導を体験し、地域歯科保健を担う一員としての能力を養う。地域歯科推進に関わる職種、役割を理解する。

*歯科衛生士として10年以上の実務経験を持つ担当教員による授業。

【授業計画】

I.提携施設における実習

(実習場所)学校法人日本体育大学 日体幼稚園

Ⅱ.行動目標

- 1.指導者からの指示を理解し、行動できる。
- 2.幼児教育の概要が理解できる。
- 3. 幼児に対しての口腔健康管理指導ができる。
- 4.集団を対象に健康教育ができる。
- 5.業務記録(日誌)の記述ができる。

学習上の注意	歯科予防処置・歯科保健指導・口腔保健管理法の基本を復習しておく。				
評価方法	実習先評価 80%・レポート(学修ノート・各科レポート) 20%				
教科書		参考書			

48	区分	専門分野	形式	実習	後期
授業科目名 臨地実習Ⅱ -		臨地実習Ⅱ-1(福祉施設)	単位	立数	1
担当	担当教員 広川香・鯉江夏美・眞田咲弥		履修	年次	口腔 2年次

高齢者福祉施設において実習を行う。高齢者福祉施設では入所者、通所者と生活をともにすることにより、その中で、口腔ケアがどのように実施されているのか、歯科衛生士がどのような役割を実際に担っているのかを自分の目で実際に見て、体感してくることが重要である。

*歯科衛生士として10年以上の実務経験を持つ担当教員による授業。

【授業計画】

I.提携施設における実習

(実習場所)東京都内、神奈川県内の社会福祉施設

Ⅱ.行動目標

- 1.高齢者や要介護者、職員とのコミニケーションを図る。
- 2.自主的に関わらせて頂き、高齢者や要介護を理解する。
- 3. 高齢者や要介護の人権を尊重し、敬意を持つ。
- 4.ノーマライゼーションを理解する。
- 5.介護老人保健施設の概要を理解する。
- 6.歯科衛生士学生として、高齢者や要介護者に口腔ケアのアドバイスができる。

学習上の注意	歯科予防処置・歯科保健指導・口腔保健管理法の基本を復習しておく。				
評価方法	実習先評価 80%・レポート(学修ノート・各科レポート) 20%				
教科書		参考書			

49	区分	専門分野	形式	実習	後	期	
授業科目名		臨地実習Ⅱ-2(福祉施設)		単位数		1	
担当	担当教員 広川香・鯉江夏美・眞田咲弥				口腔	3年次	

高齢者の口腔機能やQOLの向上に必要な技能の習得するため、対象となる人々の特性を理解し、対応方法を学ぶ。

地域保健事業の内容を学び、対象者に適切な援助ができる基本の能力を身に付ける。

実習後のまとめとして、レポート提出を行う。またグループごとに実習の報告プレゼンテーションを作成し、発表を行う。

*歯科衛生士として10年以上の実務経験を持つ担当教員による授業。

【授業計画】

I.提携施設における実習

(実習場所)東京都内、神奈川県内の社会福祉施設

Ⅱ.行動目標

- 1.高齢者や要介護者、職員とのコミニケーションを図る。
- 2.自主的に関わらせて頂き、高齢者や要介護を理解する。
- 3. 高齢者や要介護の人権を尊重し、敬意を持つ。
- 4.ノーマライゼーションを理解する。
- 5.介護老人保健施設の概要を理解する。
- 6.歯科衛生士学生として、高齢者や要介護者に口腔ケアのアドバイスができる。

学習上の注意	歯科予防処置・歯科保健指導・口腔保健管理法の基本を復習しておく。				
評価方法	実習先評価 80%・レポート(学修ノート・各科レポート) 20%				
教科書		参考書			

50	区分	選択必修分野	形式	演習	後期•木曜日		
授業和	科目名	専門基礎総合演習	単位数		2		
担当	教員	鯉江 夏美	履修年次		口腔 2年次		

1年.2年次に学んだ事項を復習し、総括するとともに問題演習などによってそれぞれの科目への理解と応用力を深め、3学年の学修に備える。

*歯科衛生士として10年以上の実務経験を持つ担当教員による授業。

【授業計画】							
11XX			1	9/28	専門基礎科目(人体解剖・機能)		
			2	10/5	専門基礎科目(口腔解剖・機能)		
			3	10/12	専門基礎科目(薬理・病理)		
			4	10/19	専門基礎科目(高齢者)		
			5	10/26	専門科目(障がい者)		
			6	11/2	専門科目(口腔外科)		
			7	11/9	専門科目(歯科放射線)		
			8	11/16	專門科目(歯科放射線·臨床検査学)		
			9	11/30	専門科目(小児歯科学)		
			10	12/7	専門科目(小児歯科学)		
			11	12/14	専門科目(歯周病)		
			12	1/11	専門科目(保存)		
			13	1/18	専門科目(補綴)		
			14	1/25	専門科目(矯正)		
			15	2/1	後期期末試験		
			16	2/8	期末試験解答解説・振り返り		
学習上	の注意	各科目のノート・参考書を復習しておく					
評価	方法	期末試験試験90%、レポート・授業態度10%					
教和	斗書	各科目の参考書	参	考書			

51 区分 選択必修分野					後期
授業和	科目名	総合歯科医学演習	単位	立数	2
担当教員 広川香・富田美穂子・鯉江夏美・眞田咲弥		履修	年次	口腔 3年次	

これまでに学修した内容を総括すると同時に、演習を交えることにより理解を深めることを目的とする。 *歯科衛生士として10年以上の実務経験・歯科医師として30年の実務経験を持つ担当教員による授業。

【授業計画】 9/28 歯科保健指導論を総括1 1 10/5 歯科保健指導論を総括2 2 10/12 歯科予防処置論を総括1 3 10/19 歯科予防処置論を総括2 10/26 保存学を総括 10/30 解剖・生理学を総括 11/2 補綴学を総括 7 11/6 病理・薬理学を総括 8 11/9 歯科予防処置論を総括3 9 11/13 矯正学を総括 11/16 歯科予防処置論を総括4 11/20 口腔外科学を総括 11/27 衛生(口腔・公衆衛生) 13 11/30 歯科保健指導論を総括3 14 1/4 後期期末試験 15 1/5 総まとめ 16 学習上の注意 これまでに学んだ事項を復習しておく 総合期末試験、小テスト、授業態度 評価方法 参考書 教科書

52	区分	選択必修分野	形式	講義	後期
授業和	科目名	医療保険	単位	立数	2
担当	教員	富田 美穂子	履修	年次	口腔 3年次

【概要】日本は社会保険方式の医療保険を国民皆保険として運用しており、歯科診療所のほとんどが保険医療機関として医 療保険を取り扱っている。このような医療保険の仕組みを理解するとともに、臨床の流れと保険点数の算定の仕方を学ぶ。日々 の歯科診療に円滑に取り組めるように、歯科診療報酬の取扱いを学修する。 【到達目標】治療内容に沿った保険点数が算定できる。毎月のレセプト用紙のチェックができるようになる。

【授業	計画】				-		
			1	9/28	歯科衛生士と歯科診療報酬		
			2	10/5	わが国の地域保健		
			3	10/12	歯科点数表総論1		
			4	10/19	歯科点数表総論2		
			5	10/26	歯科点数表の特徴1		
			6	10/30	歯科点数表の特徴2		
			7	11/13	初診料と再診料		
			8	11/17	医療保険と歯科点数総論のまとめ/確認テスト		
			9	11/20	各論(歯科衛生業務と歯科点数)1		
			10	11/24	各論(歯科衛生業務と歯科点数)2		
			11	11/27	各論(歯科衛生業務と歯科点数)3		
			12	11/30	事例(歯科衛生業務と事例)		
			13	12/5	人口動態·静態統計		
			14	12/7	疫学研究		
			15	12/8	後期期末試験		
			16	12/14	試験の解説と振り返り		
学習上	の注意	理解しにくい内容もあるので、講義後は教科書とプリントを再度確認すること。					
評価	方法	期末試験(80%)、確認テスト(20%)					
教科書 歯科診療 入門2022-2023(医歯薬出			参考書				

53	区分	選択必修分野	形式	講義	前期•木曜日
授業	科目名	社会福祉論		立数	2
担当	i教員	大滝 周	履修	年次	口腔 3年次

社会福祉とは、人間の権利として誰もが有する自己実現(well-being)を社会的に支援することである。現代は、急速に進む 少子・高齢化に伴い、さまざまな問題を有している。将来、歯科衛生士として、病院や地域で活動する際、それらの問題に適切に対処していくためには、医療分野での知識だけではなく福祉も含めた統合視点が求められている。 授業では、社会福祉の歴史、理念、目的および現代社会における社会福祉に関する制度、現状について学習する。

【授業	計画】							
1	4/20	SGDsとは						
2	4/20	社会福祉/社会保障制度とは						
3	4/27	社会福祉/社会保障制度を考える②						
4	4/27	SGDsを考える②						
5	5/11	社会保険:医療保険とは						
6	5/11	社会保険:年金保険とは						
7	5/25	社会保険:雇用保険、労働者災害補償保険とは						
8	5/25	社会保険:介護保険とは						
9	5/25	公的扶助:生活保護とは						
10	6/8	社会福祉の基本とは						
11	6/8	社会福祉:障害者福祉とは						
12	6/8	社会福祉:高齢者福祉とは						
13	6/22	社会福祉:子ども福祉とは						
14	7/6	社会福祉:子ども福祉を考える						
15	8/3	前期期末試験						
16	8/10	まとめ						
学習上の注意 本授業については、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーションを含めた形式で実施する。 主体的に授業に臨みましょう!					テーションを含めた形式で実施する。			
評価		評価は、①前期期末試験(本試験)(60%)、②グ態度(40%)の合計点とする。 再試験の再試験あるいは追試験の②の評価は、 ★ 評価については、初回授業で詳細を説明する。	本試験~					
教科書	・参考書	歯科衛生士のための衛生行政・社会福祉・社会 保険 参考書						

54	区分	選択必修分野	形式	講義	後期
授業和	科目名	スポーツ歯学	単位	立数	2
担当	教員	元開 富士雄	履修	年次	口腔 3年次

スポーツ医学の中での歯科の役割を理解し顎口腔の運動機能と全身運動との関わりを学習する。 アーティストの栄養摂取効果を高めるための口腔衛生指導と栄養指導。スポーツでの外傷の予防と処置、外傷予防のためのマウスガードの作成と調整、パフォーマンス効果を向上させるための口腔機能と処置について指導できるようになる。

【授業	計画】					
			1	9/7	スポーツ歯科医学の概念	
			2	9/7	アスリートの歯科の現状と歯科の役割	
			3	9/14	アスリートの口腔疾患と口腔管理	
			4	9/14	アスリートの栄養管理	
			5	9/28	スポーツ飲料の活用	
			6	10/5	全身運動と顎運動との関係	
			7	10/12	口腔機能のメカニズム	
			8	10/19	顎運動の評価	
			9	10/26	顎機能のリハビリ	
			10	11/2	スポーツ外傷と対応	
			11	11/9	マウスガードの目的と種類	
			12	11/16	マウスガードの選択、作成	
			13	11/30	スポーツと口腔機能ケア	
			14	12/7	ドーピングなどスポーツ医学への理解	
			15	12/8	後期期末試験	
			16	12/14	試験解説、まとめ	
学習上	の注意	スライドとプリントによる講義、一部マウスガードとスプリント実演				
評価	方法	試験及びレポート、小試験による				
教科書		スポーツ歯学ハンドブック(医学情報誌)	参	考書		